

第4次山梨市子ども読書活動推進計画 (案)



山梨市教育委員会

目次

第1章 第4次推進計画の策定にあたって	1
1 子どもの読書活動推進の意義	1
2 子どもの読書活動を取り巻く現状	1
3 計画策定の趣旨	3
第2章 第3次推進計画における取り組みの成果と課題	4
1 家庭における取り組みの成果と課題	5
2 地域における取り組みの成果と課題	7
3 保育園・幼稚園・認定こども園における取り組みの成果と課題	10
4 学校における取り組みの成果と課題	10
5 市立図書館における取り組みの成果と課題	12
6 関連機関との連携状況	13
第3章 第4次推進計画の方向性	14
1 基本方針	14
2 国及び県の方針を踏まえて	14
3 計画の対象者	16
4 成果指標	16
5 計画の期間	16
第4章 第4次推進計画 子どもの読書活動推進のための具体的方策	17
1 家庭における子どもの読書活動の推進	17
2 地域における子どもの読書活動の推進	17
3 保育園・幼稚園・認定こども園における子どもの読書活動の推進	18
4 学校における子どもの読書活動の推進	18
5 市立図書館における子どもの読書活動の推進	19
6 関係機関との連携	21
参考資料	22
1 子どもの読書活動の推進に関する法律	23
2 山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱	26
3 山梨市子ども読書活動推進計画策定関係者名簿	27
4 活動施設一覧	28
5 読書調査結果	29

第1章 第4次推進計画の策定にあたって

1 子どもの読書活動推進の意義

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないもの」(「子どもの読書活動に関する法律」第2条)です。読書によって豊かなところを育み、人生を歩んでいく上で基盤となる様々な力を培っていきます。

しかし、読書は自らが能動的に文章を読み進めなければならない、かつ、頭の中で読み起こして想像し、共感し、考え、ある時は感情を揺さぶられ…と、実はかなり負荷のかかる行為でもあります。読書をする基礎体力(読書力)が身に付いていないと、受動的で即時性のある娯楽の方について手が伸びてしまいがちです。

近年、情報通信技術(ICT)の進展に伴い、子どもたちの周りには配信動画や SNS、オンラインゲームなど魅力的で様々なコンテンツがあふれています。これらの中から、強制的ではなく自ら読書という行為を選び取るに至るためには、幼い頃からの楽しい読書の経験、習慣の定着がとても重要です。読書から得ることのできる感動や、知識を深めることの楽しさを、幼い頃から体感し、読書力を身に付けていくことで、本を介して出会う世界は大きく広がります。

読書が、日々の楽しみや困った時の頼み、苦しい時の支えにと、子どもたちの生涯にわたって心強い伴走者となるよう、子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。

2 子どもの読書活動を取り巻く現状

(1) ICT の進展

ゲームやスマートフォン等の媒体の普及や、それを利用した SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等のコミュニケーションツールの多様化など、子どもを取り巻く情報環境が大きく変化しています。

こども家庭庁の「青少年のインターネット利用環境実態調査」(令和6年実施)によると、子どもの平日一日あたりのインターネットの平均的な利用時間は、小学生 223.9 分、中学生 302.3 分、高校生 379.4 分で、小・中・高校生と年齢が上がるにつれて長時間の利用となる傾向が示されました。また、この調査における利用平均時間は 300.7 分であり、令和元年度実施の調査報告における利用時平均時間 179.6 分と比べると、約 1.7 倍に増加しています。

本市が令和7年に実施した「子どもの読書活動に関するアンケート調査」(以下、「読書活動調査」という。)では、余暇時間の過ごし方の設問(上位3つ回答)に対し、「インターネット」(67%)、「ゲーム」(58%)が上位2つを占め、「読書」は27%という結果になりました。デジタル化の進展は、子どもの読書活動に大きな影響を与えていることが窺えます。

(2) GIGAスクール構想^{※1}の進展

学校では、GIGA スクール構想に基づく ICT 環境の整備が進み、1人1台端末を用いた授業に取り組むようになってきています。

このことにより、調べ学習において情報の収集が容易になる一方、情報を調べ、かつ情報の正誤を判断する情報活用能力の育成が不可欠となります。探究的な学習活動を行うために、1人1台端末の活用とあわせて、学校図書館で本を活用することがますます重要となってきています。

(3) 電子書籍の普及

コロナ禍の外出自粛も相まって、電子書籍の普及が進みました。本は紙媒体だけでなく電子媒体で読むことも選択できるというように、読書の形態が変化しています。

本市の子どもたちにおいては、読書をした中で電子書籍の割合は、「ない」(40%)、「～3割」(32%)、「4～6割」(16%)、「7～9割」(11%)、「全部」(1%)となっています。(令和7年度読書活動調査)

令和6年に、市内の小・中学校に読み放題型電子図書館「Yomokka!」が導入され、日常的に電子図書館にアクセスできる環境になりました。電子による読書にも馴染み、ますます電子書籍が普及していくと考えられます。

(4) 読書バリアフリー

令和元年に施行された「読書バリアフリー法」に基づき、視聴覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、令和7年に「視聴覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」(国:第2期)が策定されました。

障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするため、アクセシブル(利用しやすい)な電子書籍等の普及及びアクセシブルな図書の継続的な提供、充実を図るよう方針が示されています。

※1 1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校 ICT 環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的とする構想。

3 計画策定の趣旨

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」(法律第154号。以下「推進法」という。)が施行されました。推進法は、「子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資する」ことを目的としています。

「山梨市子ども読書活動推進計画」(以下、「推進計画」という。)は、推進法の第9条2項の規定に基づき、本市における子どもの読書活動の推進に関する施策を示し、総合的かつ計画的に取り組んでいくために策定するものです。

本市においては、平成19年3月に、市内の子どもたちが積極的に読書に親しみ、生涯にわたり読書習慣を身に付けることができるよう、山梨市社会教育委員の会から「大人も子ども楽しむ“まちづくり”」と題して推進計画策定への意見書が提出され、平成20年6月に第1次推進計画を策定しました。

第4次推進計画では、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第5次)、山梨県の「山梨県の子どもの読書活動推進実施計画」(第4次)を踏まえ、第3次推進計画のもと行ってきた取り組みの課題と成果を整理し、子どもの読書活動のさらなる推進を目指していきます。

< 国と県の動向 >

国	山梨県	山梨市
■H13.12 「子どもの読書活動の推進に関する法律」公布・施行 ■H14.8 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定 ■H20.3 第2次基本計画策定 ■H25.5 第3次基本計画策定 ■H30.4 第4次基本計画策定 ■R5.3 第5次基本計画策定	 ■H17.3 「山梨県子ども読書活動推進実施計画」策定 ■H24.3 第2次実施計画策定 ■H29.3 第3次実施計画策定 ■R6.3 第4次実施計画策定	 ■H20.6 「第1次山梨市子ども読書活動推進計画」策定 ■H28.3 第2次推進計画策定 ■R3.3 第3次推進計画策定

第2章 第3次推進計画における取り組みの成果と課題

第3次推進計画では、大人が子どもの読書活動推進の意義を理解し、関係機関が協力しながら本市の子どもの読書活動を支える基盤を整えることが必要と考え、「家庭」「地域」「保育園等」「学校」「市立図書館」が担うべき役割を示し、施策に取り組んできました。

< 成果確認 >

指標		R1年度	R7年度目標	R7年度
本を読むことが好き、 どちらかというと好きな 児童・生徒の割合	小学生	92%	94%	93%
	中学生	76%	78%	76%
	高校生	76%	78%	69%
1ヶ月間に2冊以上 本を読む子どもの割合 (電子書籍を含む)	園児	78%	80%	75%
	小学生	93%	95%	92%
	中学生	65%	66%	70%
	高校生	21%	25%	18%
市立図書館のおはなし会 参加人数	子ども・ 大人	752 人	850 人	476 人
市立図書館の児童書(紙芝居含む)の 貸出数(団体貸出含む)		56,020 冊	59,000 冊	57,794 冊

※R7 年度欄の「おはなし会参加人数」「児童書の貸出数」は、R6 年度数値。

第3次推進計画で掲げた成果指標のうち、目標値に達したのは「1ヶ月間に2冊以上本を読む」中学生の割合のみとなりました。

平均として「読書が好き」な傾向の割合は令和元年度 83%、令和7年度 81%となり、第2次推進計画期間から減少しています。「1ヶ月に2冊以上の読書」の割合は、令和元年度 63%、令和7年度 65%と微増しました。

コロナ禍をきっかけに減少したおはなし会の参加人数は令和元年度並みへの復調は図られず、改善が求められる結果となりました。

1 家庭における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- ブックスタート事業※²の実施(平成 14 年から継続)
- セカンドブック事業の実施(平成 23 年から継続)
- サードブック事業の実施(平成 21 年から継続)
- おはなし会などの読書イベントへの参加

< ブックスタート配布実績 >

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象人数	216 人	166 人	195 人	156 人	153 人
配布人数	136 人	163 人	191 人	145 人	148 人
配布率	63%	98%	98%	92%	97%

第1次推進計画期間中の配布率平均は 79%、第2次推進計画期間中は 85%、第3次推進計画期間中は 89%と4%増加しました。

< セカンドブック配布実績 >

	R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象人数	235 人	224 人	151 人	227 人	206 人
配布人数	193 人	224 人	147 人	212 人	191 人
配布率	82%	100%	97%	93%	92%

第 1 次推進計画期間中の配布率平均は 94%、第2次推進計画期間中は 93%、第3次推進計画期間中は 93%です。

< サードブック配布実績 >

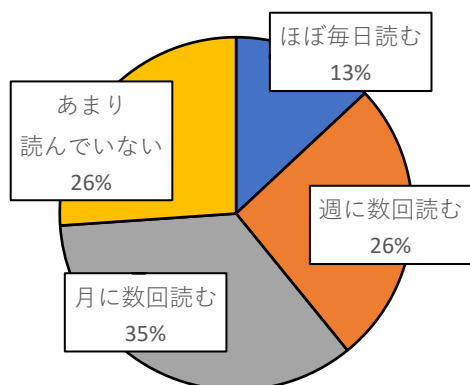
	R2 年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象人数	256 人	256 人	268 人	224 人	219 人
配布人数	256 人	256 人	268 人	224 人	219 人
配布率	100%	100%	100%	100%	100%

サードブックの配布は、各小学校の協力のもと、配布率 100%です。

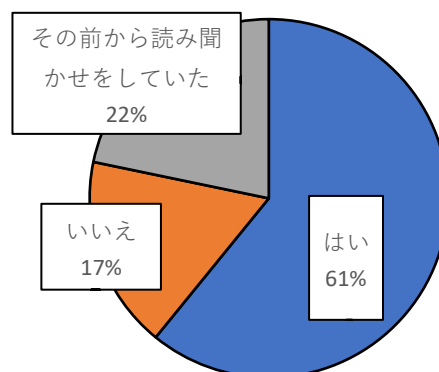
※2 赤ちゃんと保護者の心触れ合うひとときを、絵本を介してつくるよう支援する事業。3ヶ月児に絵本を1冊贈るとともに、保護者に読み聞かせの啓発を行っている。継続事業として、セカンドブック事業(3歳児)、サードブック事業(小学1年生)を実施。

令和7年7月実施の「子ども読書状況調査」によると、ブックスタート・セカンドブックの本で日常的（ほぼ毎日読む・週に数回読む）に読み聞かせを行った園児（年長）の保護者は39%、また61%の保護者が読み聞かせのきっかけになったと回答しています。

ブックスタート・セカンドブックの本で
読み聞かせを行いましたか？（当時）

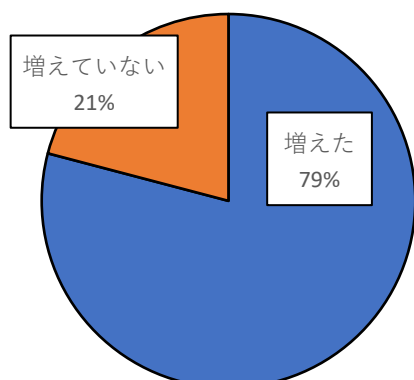


ブックスタート・セカンドブックが
絵本を読んであげるきっかけに
なつたと思いますか？

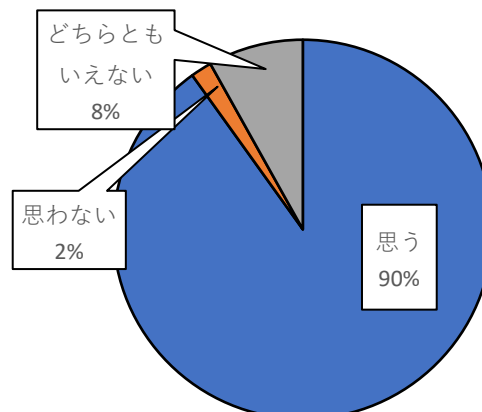


サードブックをもらったことで本を読むことが増えたと答えた児童は79%で、読書のきっかけになっています。ブック事業（ブックスタート・セカンド・サード）を続けると良いと答えた保護者は90%にのぼり、家庭における読書環境づくりに有効です。

サードブックをもらったことで、
本を読むことが増えましたか？



ブック事業は、今後も続けると
良いと思いますか？



また、「子どもが読書を好きになるために、保護者として何が必要だと思うか」という保護者に対する設問には、「幼い頃からの読み聞かせ」に次いで、「家族の読書習慣」という回答が多く寄せられました。時間の確保が難しい中でも、家族の読書習慣が重要だと考えられていることがわかります。

< 成果 >

- ブック事業の配布率は高水準を保ち、多くの家庭に本を届けることができた。
- ブック事業をきっかけに、家庭における読み聞かせや読書の機会を創出した。

< 課題 >

- 子どもと保護者が本を介して楽しい時間を過ごすおはなし会等のイベントへの参加者数の増加。
- ブック事業を契機とした、さらなる読み聞かせの習慣化。
- 家族の読書活動の促進。

2 地域(公民館・児童センター・学童クラブ・たっち※³)における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- 市立図書館の団体貸出や定期巡回団体貸出※⁴の活用
- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充
- 日常的な読み聞かせの実施

令和7年8月に行った「関連機関状況調査」によると、公民館では、子どもたちが読むことのできる本が置いてあるコーナーの設置は 100%にのぼるものの、年齢に応じた図書が充実していると答えた館は 10%にとどまりました。また、子ども向けの読書行事の実施は0%でした。

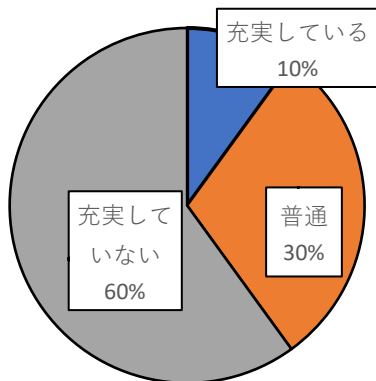
児童センター・学童クラブ・つどいの広場たっち※⁴では、子どもの読書コーナーの設置は 100%、年齢に応じた図書が充実しているとの回答は 29%でした。

また、「子ども読書状況調査」(令和7年)によると、保護者からの子どもの読書活動に関する自由意見として、「子どもが自身で行くことのできる距離で、出張図書館や映画上映、おはなし会などをしてほしい」といった、地域で読書に触れる機会の充実を望む声がありました。

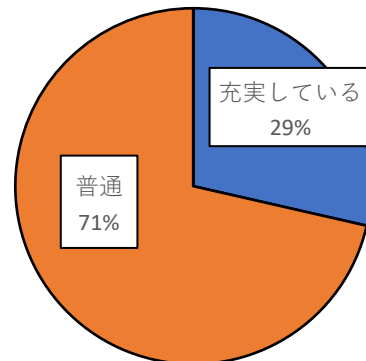
※3 主に乳幼児をもつ親と赤ちゃんが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で話をしたり、一緒に遊んだりしながら、交流を図るための場所。つどいの広場たっち(山梨市役所内)と、つどいの広場たっち牧丘(牧丘支所内)がある。

※4 市立図書館が、保育園、幼稚園、認定こども園、児童センター等に、対象となる子どもの年齢に合わせた本を毎月(貸出期間1ヶ月間)巡回して貸し出すサービス。他に、施設等の団体利用登録者が市立図書館で図書を選び、1ヶ月間借り受ける「団体貸出」サービスもある。

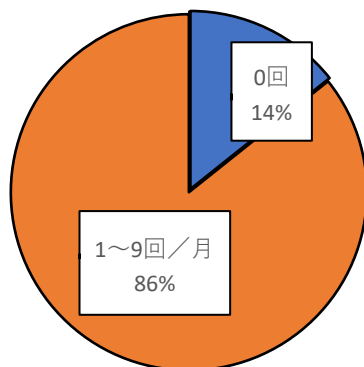
公民館
年齢に応じた図書が充実していますか？



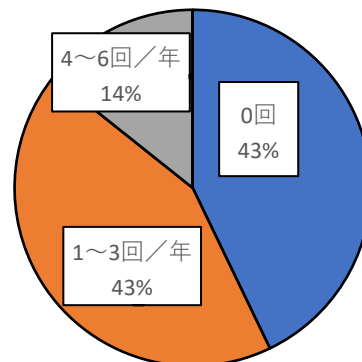
児童センター・学童・たち
年齢に応じた図書が充実していますか？



児童センター・学童・たち
日常的な読み聞かせの実施



児童センター・学童・たち
おはなし会など読書行事の実施



つどいの広場たちでは、図書館ボランティアの協力により、年2回の頻度で読み聞かせおはなし会を開催しています。

< 成果 >

- 読書コーナーの設置や市立図書館の定期巡回団体貸出の受け入れにより、子ども手が届くところに図書がある環境を整えた。

< 課題 >

- 年齢に応じた図書のさらなる充実、更新。
- 読み聞かせや読書行事の実施。

3 保育園・幼稚園・認定こども園における取り組みの成果と課題

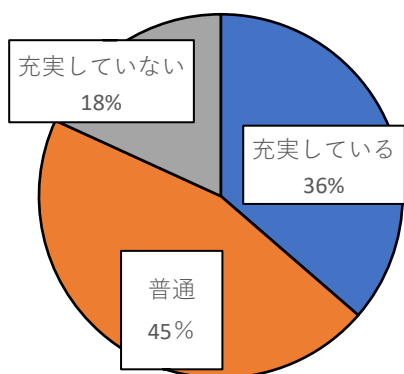
<取り組み>

- 子どもたちの読書コーナーを充実させ、年齢に応じた図書の充実
- 市立図書館の団体貸出や定期巡回団体貸出の活用
- 日常的な読み聞かせの実施
- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充
- 行事の中で大型紙芝居やパネルシアターなどの積極的利用
- 保護者に対する家庭での読書の啓発
- 図書の運搬に係わる人員及び手段の整備

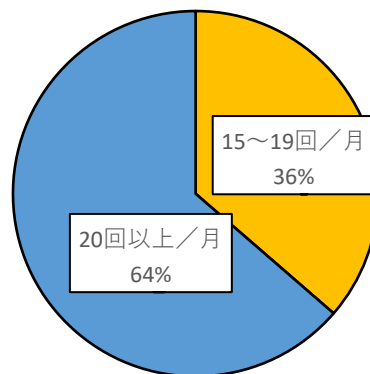
「関連機関状況調査」によると、子どもの読書コーナーの設置は100%、年齢に応じた図書が充実していると答えたのは36%でした。読み聞かせは、月に15～19回と答えた園が36%、月に20回以上と答えた園が64%であり、日常的に行われています。

読書行事の実施は0回が64%と最も多く、次いで年に1～3回が18%となりました。大型紙芝居やパネルシアターなどの利用は「積極的に利用した」と「利用した」を合わせると91%となり、子どもたちに楽しんでもらうための取り組みが窺えます。

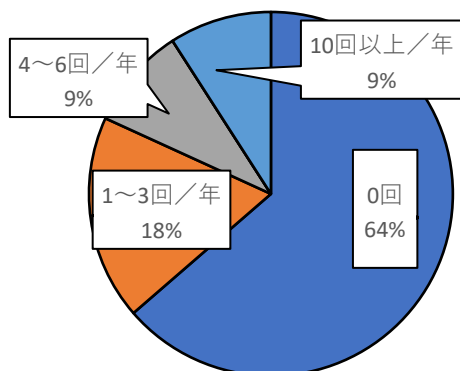
年齢に応じた図書が充実していますか？



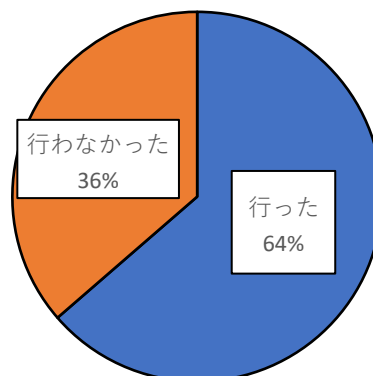
日常的な読み聞かせの実施



読書行事の実施



保護者への子どもの読書活動啓発



家庭での読書の啓発を行ったと答えた 64%の園では、おたよりを活用したり、月刊誌を家庭に貸し出したりと、工夫した取り組みが見られました。

図書の運搬に係わる人員及び手段の整備については 91%の園が十分と回答しています。

< 成果 >

- 読書コーナーの設置や市立図書館の定期巡回団体貸出の受け入れにより、子どもの手が届くところに図書がある環境を整えた。
- ほぼ毎日の頻度で読み聞かせをしており、日常的に読書の機会を設けた。

< 課題 >

- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充。

4 学校における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- 魅力的な蔵書の充実
- 図書資料のデータベース化(令和5年)
- 学校司書の充実や司書教諭と協力して図書館運営を行える体制づくり
- 児童生徒へのレファレンスサービス※⁵の実施
- 各種ブックリストの※⁶作成
- 読み聞かせの時間や図書集会など読書活動の機会の充実
- 図書委員会の活性化
- 朝読書を通した読書を楽しむ仕組みづくり
- 親子読書や家読※⁷の活動推進
- 小・中学校に読み放題型電子図書館の導入(令和6年)

※5 利用者からの調査依頼に対して、必要とする情報(回答)や情報源を効率よく入手できるよう支援するサービス。

※6 ある基準で選択され、本を薦めたり、紹介するために作られた目録。

※7 家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動。子どもを中心に家族で同じ本を読み、感想を言い合うなど。

第2次推進計画期間に図書資料がデータベース化されていたのは高等学校の2校のみでしたが、第3次推進期間中の令和5年には、全ての小中学校においてもデータベース化され、図書資料の有効利用が図られました。

図書館運営の体制づくりでは、85%が整った体制で行えたとの回答ですが、体制が不十分と答えた学校では、「時間がとれない」「図書館司書の勤務状況(週3日)の為、活動が限られている」といった声があがりました。

レファレンスサービスは92%の学校で実施しており、ブックリストは77%の学校で作成しています。

読み聞かせについては、未実施の38%は中学校と高等学校であり、すべての小学校で実施されています。令和元年度の調査時よりも実施回数が増え、年齢に応じて機会が作られています。

図書集会などの読書行事の実施は令和元年度調査時より大きく下回りました。学校では行事精選の方向から実施が減少傾向にあります。

<図書集会(読書に関する行事)の実施率>

	R1		R7	
実施した	12校	92%	5校	38%
未実施	1校	8%	8校	62%
	13校	100%	13校	100%

図書委員会活動の活性化に取り組んだ85%の学校や、朝読書のさらなる展開を実施した46%の学校では、クイズなど遊びに絡めたものや展示を行ったものなど、工夫した取り組みがなされました。

親子読書や家読については、前調査時よりも実施率が高くなりました。

<親子読書または家読の実施率>

	R1		R7	
実施した	6校	46%	8校	62%
未実施	7校	54%	5校	38%
	13校	100%	13校	100%

<成果>

- すべての学校で図書資料がデータベース化し、活用・管理の向上が図られた。
- 電子図書館の導入により、新たな読書形態・機会を提供した。
- 親子読書や家読の実施により、家庭における読書機会の提供及び読書啓発となった。

< 課題 >

- 電子図書館導入による読書活動及び学校図書館活用への影響の検証及び相乗効果を生み出す活用の検討。

3 市立図書館における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業
- 定例おはなし会及び講演会などの読書イベントの開催
- 定期巡回団体貸出の実施
- 図書館見学や職場体験などの受け入れ

< おはなし会種類 >

おはなし会 名称	ボランティア グループ名	開催頻度 (毎月)	対象	開始年
チェリー	くれよん	第 2 火曜日	乳幼児	H13
くれよん		第 4 土曜日	幼児～小学低学年	H16
ぐれーぷ	ぐれーぷ	第 2 日曜日	幼児～小学低学年	H28
ぐれーぷ		第 4 火曜日	乳幼児	
ピーち	ピーち	第 3 日曜日 (隔月)	親子(英語おはなし会)	H29

< おはなし会開催状況 >

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
開催回数	6 回	26回	42回	44回	45回
参加人数	52 人	288人	336人	406人	476人
平均参加人数	9 人	11人	8人	9人	11人

※令和 2 年度:新型コロナウイルス感染症拡大につき 4 月～12 月まで閉館

※令和 3 年度:新型コロナウイルス感染症拡大につき 8 月～10 月まで閉館

< 講演会やワークショップなどの読書イベントの開催 >

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
開催回数	1 回	未実施	1 回	1 回	1 回
参加人数	87 人	—	45 人	77 人	73 人

※令和 3 年度:新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請により未実施。令和 4 年度へ延期。

平成13年度からスタートした図書館ボランティアによるおはなし会については、ボランティアの協力のもと、子どもと保護者が本に親しむ機会を継続して提供しています。対面でのふれあいの場となるおはなし会にとって、新型コロナウイルスの流行が与えた影響は多大なものでした。

令和元年度は752人だったおはなし会の参加者数に対し、令和6年度は476人となっています。徐々に復調傾向ではあるものの、外出自粛によって一度おはなし会への参加が習慣から外れてしまった、または参加したことがない・知らないという保護者に向けて、呼びかけの強化が必要です。

また、平成22年度から継続している定期巡回団体貸出は、保育園など各施設に毎月30冊の図書を貸し出しています。日々の保育の中で読み聞かせに使われ、園の読書環境の整備に大きな成果があります。令和4年度からは小規模校(岩手小学校、八幡小学校、笛川小学校、笛川中学校)へ隔月の定期巡回貸出も実施し、読書環境のさらなる整備を目指しています。

<定期巡回団体貸出受入施設数>

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
22	23	29	28	28

<成果>

- おはなし会や講演会等の開催により、継続的に子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供した。
- 定期巡回団体貸出や団体貸出により、読書環境整備の支援を行った。

<課題>

- おはなし会やイベントへの参加者数増加。
- 情報発信(読書啓発、イベント周知、資料情報)の強化。
- 地域への読書機会提供の支援。
- 家庭への読書活動推進の啓発。

6 関係機関との連携状況

- 公共図書館との相互貸借協力によって図書を貸借し、子どもの「読みたい」気持ちにでき得る限り応えた。
- 令和3年に締結した山梨英和大学と包括的連携協定により、読書イベントを通して子どもと大学生との交流がなされた。

第3章 第4次推進計画の方向性

1 基本方針

子どもは、大人をよく見えています。家族が家庭で楽しそうに本を読んでいる姿を見れば、自然と子どもも本に手を伸ばします。家庭や保育園等、学校、市立図書館など、子どもたちが過ごすあらゆる場所において、それぞれの役割を認識し、子どもの発達段階に応じて、大人が読書環境を整え、子どもを読書の世界に導くことが大切です。

そのためには、大人が子どもの読書活動推進の意義を理解し、関係機関が連携しながら子どもの読書活動を支えることが求められます。

第4次推進計画では、第3次推進計画の基本方針を引継ぎ掲げ取り組んでいきます。

< 第4次推進計画の基本方針 >

本市の子どもが、小さいときから身近な場所で本に触れ、読書を楽しむことができ、自主的な読書活動ができるような環境づくりを推進するために、家庭や地域、学校、図書館等がそれぞれに取り組むべき具体的な方策を計画的に推進する。

- (1) 家庭における読書活動の推進
- (2) 地域における読書活動の推進
- (3) 保育園・幼稚園・認定こども園における読書活動の推進
- (4) 学校における読書活動の推進
- (5) 市立図書館における読書活動の推進
- (6) 関係機関との連携

2 国及び県の方針を踏まえて

第4次推進計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第5次)及び山梨県の「山梨県の子ども読書活動推進実施計画」(第4次)の計画を踏まえて計画します。

< 第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画基本方針 > (国)

(1) 不読率の低減

- ・就学前からの読み聞かせ等の促進、入学時等の学校図書館のオリエンテーション等の充実。
- ・不読率が高い状態の続く高校生：探求的な学習活動等での図書館等の活用促進、大人を含めた読書計画の策定等。

(2) 多様な子どもたちの読書機会の確保

- ・障害のある子ども、日本語指導を必要とする子ども等、多様な子どもの可能性を引き出すための読書環境を整備。

(3) デジタル社会に対応した読書環境の整備

- ・社会のデジタル化、GIGA スクール構想等の進展等を踏まえ、言語能力や情報活用能力を育むとともに、緊急時等を含む多様な状況における図書への継続的なアクセスを可能とするために、図書館及び学校図書館のDXを進める。

(4) 子どもの視点に立った読書活動の促進

- ・子どもが主体的に読書活動を行えるよう、子どもの意見聴取の機会を確保し、取り組みに反映させる。

< 第4次山梨県子ども読書活動推進実施計画基本方針 > (山梨県)

(1) 社会全体での取組

- ・地域、図書館、幼稚園、保育所、認定こども園等を含めた学校等がそれぞれの担う役割を果たすような取り組みを推進していくことが大切。

(2) 人材の育成

- ・子どもの発達段階や個人差に応じて適切な本を見極め、子どもと本に関する十分な知識と技術を身に付けた人材の育成を図ることが大切。

(3) 環境整備・充実

- ・あらゆる機会と場所において、自ら読書活動に親しみ、進んで読書習慣を身に付けていける環境を整えることが大切。

(4) 普及・啓発

- ・子どもを取り巻く大人たちが、子どもの読書活動に関心をもち、その意義や重要性等について様々な機会を通じて理解を深めていくことができるような取り組みが必要。

2 計画の対象者

概ね18歳以下の子ども及び子どもとその保護者、また子どもの読書活動の推進の関係者。

3 成果指標

指標		R7年度	令和11年度目標
本を読むことが好き、どちらかというと好きな児童・生徒の割合	小学生	93%	94%
	中学生	76%	78%
	高校生	69%	71%
1ヶ月間に2冊以上本を読む子どもの割合（電子書籍を含む）	園児	75%	78%
	小学生	92%	95%
	中学生	70%	72%
	高校生	18%	21%
市立図書館のおはなし会参加人数	子ども・大人	476人	600人
市立図書館の児童書（紙芝居含む）の貸出数（団体貸出含む）		57,794冊	59,000冊

4 計画の期間

第4次推進計画の期間は、令和8年度から令和12年度までとします。

第4章 第4次推進計画 子どもの読書活動推進のための具体的方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、日常生活の中で繰り返し本に触れることで身に付きます。生活の基盤となる家庭において、最も身近な存在である保護者が、子どもへの読み聞かせや本の感想を語り合うなど、本を介したコミュニケーションをとることが大切です。

子どもが本と出会い読書に親しむために、まず保護者が読書に親しみ、子どもに機会を与え、家庭の読書環境を整える積極的な姿勢が必要です。

< 具体的方策 >

- ブックスタート、セカンドブック、サードブックが契機となり、家庭における読み聞かせが増加するよう努める。
- 子どもだけでなく、家族みんなを含めた家庭での読書活動を呼びかける。
(家読や親子読書、読書週間など)
- 乳幼児健診時の機会に、保護者に読書の大切さや楽しさを伝えると共に、電子メディアとの上手な付き合い方の情報を提供する。
- 読書に関する情報(おはなし会等イベントや講座、読書啓発)を発信し、市立図書館の貸出利用及びおはなし会などへの積極的な参加を促す。
- 保護者が読書に親しむことができるよう、市立図書館へ立ち寄りたくなる環境整備、企画を実施する。

2 地域における子どもの読書活動の推進

地域には、公民館、児童センター、学童クラブなど、子どもが集う場があります。歩いて行くことのできる距離にあるということが、子どもの居場所と成り得る施設として肝心な点です。また、公民館やつどいの広場たちは、子どもだけでなく、保護者同士が交流する場としても重要な場所でもあります。

子どもたちが過ごすこれらの身近な場所で、日々読書に親しみ、本を通した子ども同士、または子どもと大人、大人と大人の交流を多く持つことが大切です。

< 具体的方策 >

- 子どもの読書コーナーの充実(図書の更新・年齢に応じた図書の収集)に努める。
- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充。
- 本を読む時間を設け、日常的な読み聞かせを実施する。

3 保育園・幼稚園・認定こども園における子どもの読書活動の推進

家庭の形が多様化している中、子どもの居場所となる保育園などにおいて、子どもの健やかな育成を図るためには、充実した読書環境が望まれます。

生活の範囲が家庭から広がる幼少期は、昆虫や動植物など、新たな世界に興味や関心が広がる年齢です。この時期に、日々の保育の中で友達や先生と一緒にさまざまな本に触れ、遊ぶことを通して本に親しむことがとても大切です。

< 具体的方策 >

- 子どもの読書コーナーの充実(図書の更新・年齢に応じた図書の収集)に努める。
- 市立図書館の団体貸出や定期巡回団体貸出を活用する。
- 本を読む時間を設け、日常的な読み聞かせを実施する。
- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充。
- 保護者に対し、日頃から園での読書の様子を伝えるとともに、おたよりの配布などにより家庭での読書を啓発する。

4 学校における子どもの読書活動の推進

学校は、勉強する場であると同時に、集団生活を通して人との触れ合いを学ぶ人間形成の場です。社会に出ていく前段階の子どもの、生きる力を養います。

そのため、学校図書館には、読書によって豊かな知識と情操を育む「読書センター」、授業に役立つ資料を備え学習活動を支援する「学習センター」、情報活用能力を育む「情報センター」としての役割が強く期待されます。

< 具体的方策 >

- 児童生徒の興味や関心に応えられるよう魅力ある蔵書の構成に努める。また、正

しい情報に触れることができるよう、蔵書の更新を行う。

- 誰もが読書に親しむことができるよう、アクセシブルな図書※⁸の収集・提供に努める。
- 学校司書や教員、保護者やボランティアなどによる読み聞かせを実施し、読書に触れる機会の充実。
- 朝読を継続的に実施し、読書の習慣化を図る。
- 児童生徒の意見・要望を把握し、展示やイベントなど図書委員活動や学校図書館運営に活かす。
- 図書委員等の子どもの学校図書館運営への主体的な参画を促す。
- 学校図書館が子どもの読書活動及び主体的・対話的で深い学びの視点による学習に寄与できるよう、学校司書と司書教諭、教員が情報の共有に努める。
- オリエンテーション等を実施し、学校図書館及び電子図書館の利活用を促進する。
- 電子図書館の導入後の経過を観察・検証を行い、活用を促進する。
- 読書の楽しさを家庭で共有できるよう、親子読書や家読の活動を推進する。

5 市立図書館における子どもの読書活動の推進

市立図書館は、豊富な図書の中から読みたい本を自由に選び、本を読むことの面白さ、知識を吸収する楽しさを知ることのできる場です。保護者にとっても、子どもと本を結ぶ場であるだけでなく、自身も読書に親しみ、おはなし会などでは親子でおはなしを楽しむこともできます。子どもの読書活動の拠点として、充実した図書の提供、読書環境の整備や読書機会の提供、関係機関と連携した様々な支援などを行っていくことが求められています。

また、図書館が持つ「居場所」としての機能も見直されています。子どもたち誰もが立ち寄りやすく、心地よい場所であることで、さまざまな状況にある子どもたちが安心して過ごせる場所になります。学校以外での人との交流を楽しむも、一人でゆっくり過ごすも自由、多様な過ごし方ができます。その中で、その時期に応じた“求めている1冊”である本との出会いが生まれるよう、子どもに寄り添った居場所づくりが必要です。

※8 誰もが利用し(読み)やすいよう配慮された図書。次のものや音訳図書、電子書籍などがある。

大活字本: 目の見えにくい方にも読みやすいよう、大きな文字で書かれた本

点字図書: 点字に翻訳された本。点を使って図や絵を表したものを「点図」という。

LL ブック: やさしい言葉でわかりやすく書かれた本。絵文字や写真、図を使って理解を助ける。

布の絵本・さわる絵本: 布・革・毛糸などを用いて作られ、触って絵の形がわかる。

＜具体的方策＞

- 子どもの興味や関心に応えられるよう魅力ある蔵書の構成に努める。また、正しい情報に触れることができるよう、蔵書の更新を行う。
- 子どもの要望を聞き取り、要望や意見を生かした図書館運営（資料・環境整備、イベント企画）に努める。
- 読書環境整備のため、定期巡回団体貸出を継続実施する。
- 多言語の利用案内や掲示を作成する。
- 誰もが読書に親しむことができるよう、アクセシブルな図書の収集・提供に努める。また、サピエ※⁹の周知など、情報発信を行う。
- ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業の継続実施及び実施形態の改善。
 - ・ブック事業の意義（事業趣旨や読書が子どもに与える刺激や効果）を伝える。
 - ・家族の読書活動を啓発する。
 - ・読み聞かせ実施等、コロナ禍に縮小したブックスタートの実施方法の充実を図る。
- 定例おはなし会及び講演会などの読書イベントの充実。
 - ・イベントの開催周知及び開催報告をウェブサイトや SNS で発信し、イベントの周知拡大及び興味関心の向上を図る。
- 図書館見学や職場体験の積極的な受け入れ及び実施の働きかけを行う。
- 専門的な研修に参加し、職員のスキルアップに努める。
- 紙書籍と電子書籍双方について検証し、読書活動への効果及び影響、懸念点、利活用を研究する。
- 地域（公民館やつどいの広場たち）への読書支援（出張おはなし会など）の検討。
 - ・公民館で開催する文化祭などのイベントで、出張おはなし会を実施する。
- 居住地域に関わらずに子どもが市立図書館の図書を利用できるよう、市立図書館と学校図書館が相互貸借で連携を図る。
- 児童書の魅力を大人に伝え、大人に図書館の利用を促し、併せて子どもの利用促進に繋げる。
- ボランティアと協働して事業を実施する。
- ボランティアの養成を図るため、研修及び情報を提供する。

※9 視覚障害者をはじめ、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データなどで提供するネットワーク。

6 関係機関との連携

本計画を実現していくため、家庭や地域、保育園、幼稚園、認定こども園、学校、市立図書館、さらにはボランティアや県立図書館など関係機関が相互に協力、連携し、各種事業の推進に取り組んでいきます。

(1) 具体的方策

- 山梨県子ども読書支援センターの機能を有する県立図書館における講座、講師派遣、「子どもの保護者への啓発事業」、資料提供といった支援策の積極的活用を図るとともに、その情報提供を行う。
- 資料の相互貸借や情報交換等による市立図書館と学校図書館、保育園、幼稚園等との連携を図る。
- 公立図書館や大学図書館、民営図書館などと相互協力（イベント協力、資料貸借協力）をもって子どもの読書活動を推進する。

参考資料

- 1 子どもの読書活動の推進に関する法律
- 2 山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱
- 3 山梨市子ども読書活動推進計画策定関係者名簿
- 4 活動施設一覧
- 5 調査結果
 - ・山梨市「子ども読書活動に関するアンケート調査」
 - ・山梨市「子ども読書活動推進計画に関する調査」

1 子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成 13 年 12 月 12 日法律第 154 号)

(目的)

第1条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第3条 国は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第5条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第6条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関との連携強化)

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第8条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子どもの読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

2 政府は、子どもの読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子どもの読書活動基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画または市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置)

第 11 条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附則

この法律は、公布の日から施行する。

衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

- 1 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
- 2 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
- 3 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
- 4 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
- 5 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
- 6 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

2 山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

（設置）

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成 13 年法律第 154 号）第9条第2項の規定による山梨市子ども読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）の策定にあたり、山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 策定委員会は、推進計画策定のため必要な事項を協議する。

（組織）

第3条 策定委員会の委員は、子ども読書活動推進に係わる市民、学識経験者、学校教育関係者及び関係行政機関の職員のうちから、市長が委嘱又は任命する委員を持って組織する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命された日から推進計画が策定されるまでとする。

（役員）

第5条 この策定委員会に、会長及び副会長を各1名置く。

2 会長は、委員の互選によって選出し、策定委員会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長の指名する委員をもって充て、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

（会議）

第6条 策定委員会は、必要に応じ会長が招集し、会長がその会議の議長となる。

（庶務）

第7条 策定委員会の庶務は、生涯学習課が行う。

（その他）

第8条 この要綱に定めるもののほか策定委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

この要綱は、平成 19 年9月 21 日より施行する。

3 山梨市子ども読書活動推進計画策定関係者名簿

< 山梨市子ども読書活動推進計画策定委員会名簿 >

氏名	備考
藤原 孝信（会長）	山梨市社会教育委員の会会長
佐藤 俊一（副会長）	山梨市文化協会会長
竹川 和彦	山梨市教育長
飯沼 久裕	山梨市校長会代表
志村 篤男	山梨市公民館連絡協議会館長部会会長
佐藤 理沙	山梨市 PTA 連絡協議会副会長
櫻井 由美	山梨市保育協議会会長
向山 有紀	山梨市図書主任代表
山下 けい子	山梨市立図書館ボランティア代表

< 山梨市子ども読書活動推進計画策定ワーキング部会名簿 >

氏名	備考
志村 成美	こども・子育て課 こども・子育て支援担当
雨宮 雄貴	こども・子育て課 保育担当
雨宮 ひとみ	こども・子育て課 保育士（山梨保育園）
小林 美和子	学校教育課 学校図書館司書（笛川中学校）
坂本 章子	生涯学習課 生涯学習担当

< 事務局 >

氏名	備考
武井 学	生涯学習課 課長
高原 歳徳	生涯学習課 市民会館・図書館担当リーダー
千葉 あゆ美	生涯学習課 市立図書館司書
俵 由紀	生涯学習課 市立図書館司書

4 活動施設一覧

地域	保育園・幼稚園・認定こども園	学校
加納岩公民館	後屋敷保育園	加納岩小学校
日下部公民館	岩手保育園	日下部小学校
後屋敷公民館	山梨保育園	後屋敷小学校
日川公民館	八日市場保育園	日川小学校
山梨公民館	八幡保育園	山梨小学校
八幡公民館	窪平保育園	八幡小学校
岩手公民館	光明保育園	岩手小学校
中牧公民館	加納岩保育園	笛川小学校
西保公民館	くさかべ幼稚園 (幼稚園型認定こども園)	山梨南中学校
諏訪公民館		山梨北中学校
三富公民館	風の子保育園 (幼保連携型認定こども園)	笛川中学校
加納岩学童クラブ		日川高等学校
おおとり学童クラブ	日下部保育園 (保育所型認定こども園)	山梨高等学校
日下部第一学童クラブ		市立図書館
日下部第二学童クラブ	双葉幼稚園	山梨市立図書館
山梨学童クラブ	つつじ幼稚園	
八幡学童クラブ		
日川学童クラブ		
後屋敷学童クラブ		
岩手学童クラブ		
笛川学童クラブ		
加納岩児童センター		
日下部児童センター		
山梨児童センター		
つどいの広場たち		
つどいの広場たち牧丘		

令和8年 3 月現在

5 読書調査結果

子どもの読書活動に関するアンケート調査結果 ＜子ども読書状況調査＞

山梨市 生涯学習課

【実施方法】 logo フォームによる回答

【調査対象】 (1)市内の公立園児(年長組)とその保護者 ……6園
(2)市内の公立小学生(2年生、5年生) ……8校
(3)市内の公立中学生(2年生) ……3校
(4)市内の高校生(2年生) ……2校
(5)市内の公立小学校2年生の保護者 ……8校

【調査期間】 (1)(5) :令和7年7月 1日(火)～令和7年7月31日(木)
(2)～(4) :令和7年6月17日(火)～令和7年7月18日(金)

【回答数】

	対象者数	回答数	回答率
園児及び保護者	66	28	42%

	対象者数	回答数	回答率
小学2年生	219	201	92%
小学5年生	260	229	88%
中学2年生	241	220	91%
高校2年生	332	272	82%
小計	1,052	922	88%

	対象者数	回答数	回答率
小学2年保護者	219	83	38%

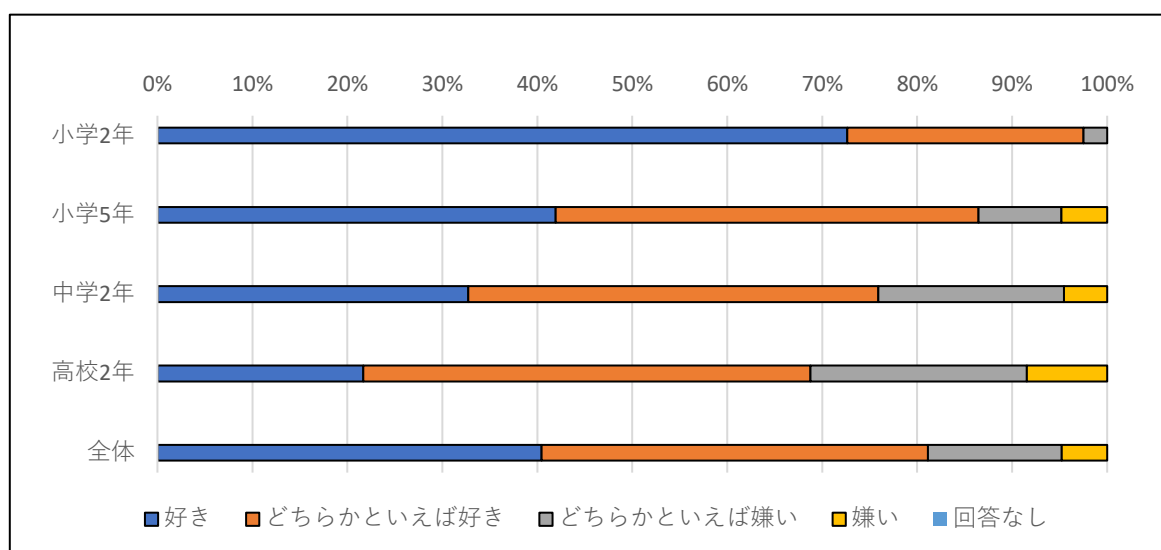
	対象者数	回答数	回答率
総体	1,337	1,033	77%

※自由記入欄の複数回答は回答内容ごとにまとめた

小学2年生・小学5年生・中学2年生・高校2年生 回答

Q.1 あなたは、本を読むことが好きですか？

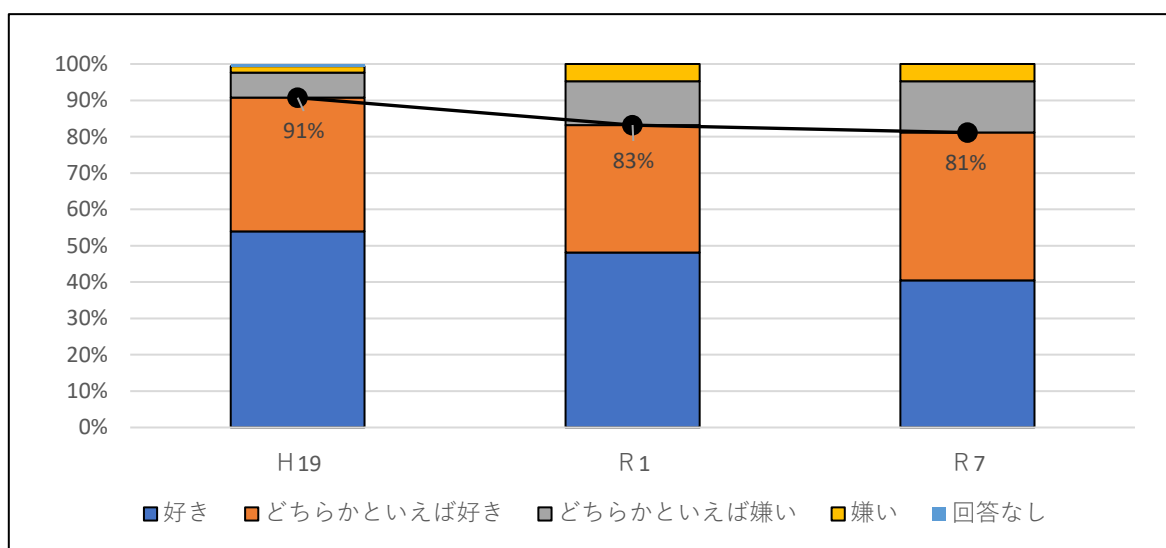
	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
好き	146	73%	96	42%	72	33%	59	22%	373	40%
どちらかといえば好き	50	25%	102	45%	95	43%	128	47%	375	41%
どちらかといえば嫌い	5	2%	20	9%	43	20%	62	23%	130	14%
嫌い	0	0%	11	5%	10	5%	23	8%	44	5%
回答なし	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	201	100%	229	100%	220	100%	272	100%	922	100%



読書が好きであるかという質問では、全体でみると「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒が 81%であり、子どもたちは読書が好きであることがわかります。

「好き」「どちらかといえば好き」の割合は、小学2年生(98%)、小学5年生(87%)、中学2年生(76%)、高校2年生(69%)と学年が上がるごと、およそ1割ずつ下がっていく傾向となっています。

	H19		R1		R7	
好き	558	54%	580	48%	373	40%
どちらかといえば好き	381	37%	422	35%	375	41%
どちらかといえば嫌い	71	7%	145	12%	130	14%
嫌い	19	2%	57	5%	44	5%
回答なし	6	1%	0	0%	0	0%
合計	1035	100%	1204	100%	922	100%



平成 19 年度に行った「学校読書傾向調査」※¹及び令和元年度に行った「子ども読書状況調査」を比較すると、同設問に対して「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童生徒の割合は、平成 19 年度は 91%、令和元年度は 83%であり、令和7年度にいたるまで減少が続いています。

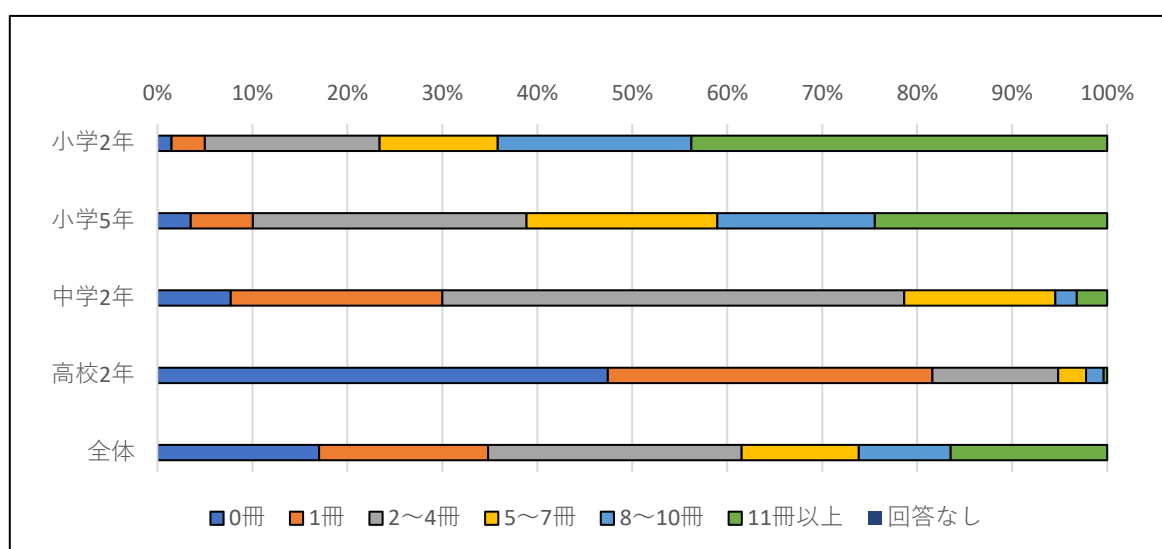
※「学校読書傾向調査」では高校2年生に対して調査を未実施でした。高校2年生を含まない割合は、令和元年度、令和7年度とも 87%であり、91%からの微減です。

※1 山梨市は、平成 18 年度に文部科学省の新規事業である「学校図書館支援センター推進事業」の推進地域に指定。「学校、家庭、地域が一体となった幼児期からの人間力の向上」の取り組みの一つとして、子どもが自主的に読書活動を行うことができるような環境整備を目的とする事業。

山梨市学校図書館支援センターで「子どもたちの健やかなこころの健康づくり」に向けて、読書傾向をはかるため、平成 19 年 12 月に実施した調査。対象は市内の小学生及び中学1年生。

Q. 2 1ヶ月間のあいだに、どのくらい本を読みますか？（マンガは含めない）

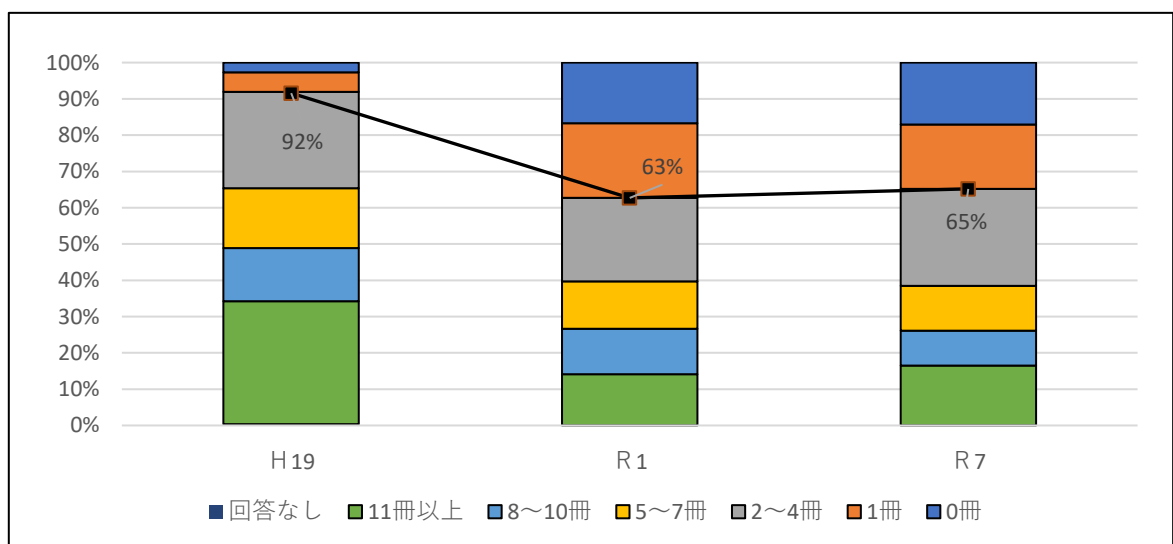
	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
0 冊	3	1%	8	3%	17	8%	129	47%	157	17%
1 冊	7	3%	15	7%	49	22%	93	34%	164	18%
2～4 冊	37	18%	66	29%	107	49%	36	13%	246	27%
5～7 冊	25	12%	46	20%	35	16%	8	3%	114	12%
8～10 冊	41	20%	38	17%	5	2%	5	2%	89	10%
11 冊以上	88	44%	56	24%	7	3%	1	0%	152	16%
回答なし	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	201	100%	229	100%	220	100%	272	100%	922	100%



1ヶ月間に2冊以上本を読む児童生徒の割合は、全体では 65%となりました。学年別では、小学2年生は 96%、小学5年生は 90%、中学2年生は 70%、高校2年生は 19%となっています。とくに割合が落ち込む高校2年生では、不読率(0冊)が「1冊」を上回り、47%となっています。令和元年度の高校2年生への調査でも同様に、不読率が 41%、「1冊」回答は 38%となっており、不読率が高くなる傾向があります。

高校生になると勉強や部活動がより忙しくなることが推察される結果ですが、あわせて余暇時間の過ごし方にも注視が必要です。また、中学生との比較としては、朝読などの取り組みも数値への表れと考えられます。

	H19		R1		R7	
0 冊	28	3%	201	17%	157	17%
1 冊	55	5%	248	21%	164	18%
2～4 冊	275	27%	277	23%	246	27%
5～7 冊	171	17%	157	13%	114	12%
8～10 冊	152	15%	151	13%	89	10%
11 冊以上	350	34%	170	14%	152	16%
回答なし	4	0%	0	0%	0	0%
合計	1035	100%	1204	100%	922	100%



同設問で「2冊以上」と回答した全体の割合は、平成 19 年度は 92%、令和元年度は 63%、令和7年度は 65%となりました。

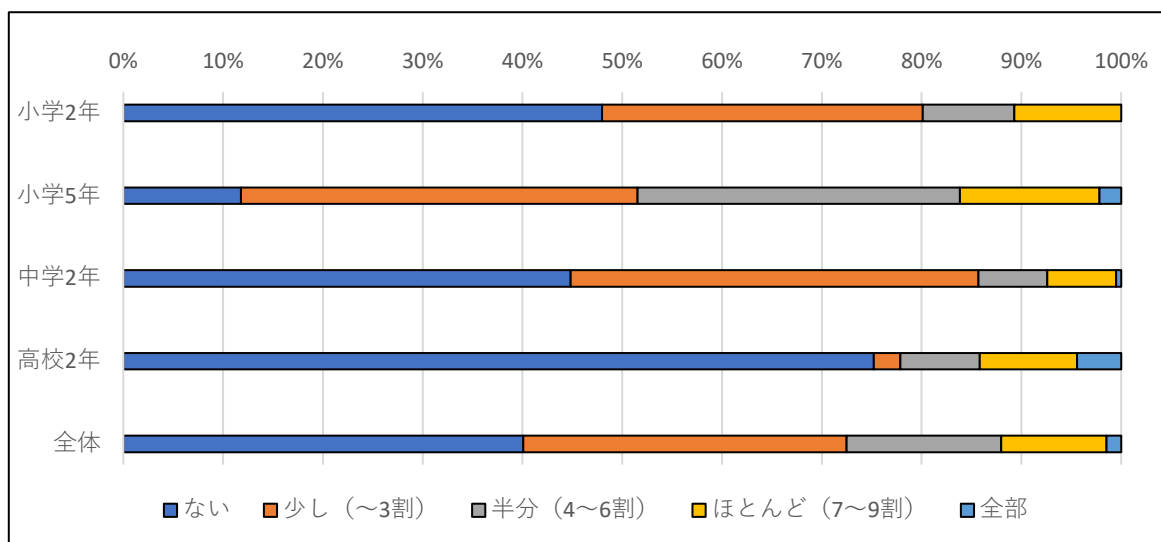
高校2年生を含まない割合（「2冊以上」）は、令和元年度は 84%、令和7年度は 85%となりました。

また、第 69 回学校読書調査※²では、小学生の不読者の割合は 8.5%、中学生は 23.4%、高校生は 48.3%との結果になりました。調査対象の学年が異なるため一概には言えませんが、傾向として本市と比較すると、小学生と中学生については全国よりも不読率は低く、高校生はほぼ同率となっています。

※2 公益社団法人全国学校図書館協議会が毎年6月に実施する読書調査。全国の小学生（4～6年生）・中学生（1～3年生）・高校生（1～3年生）を対象とした抽出調査。

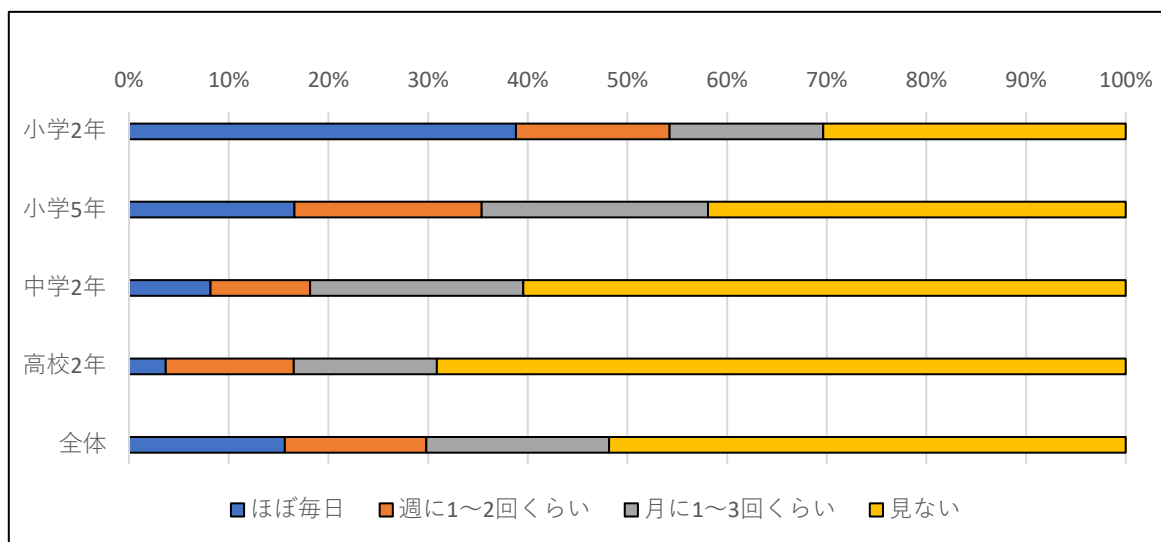
Q. 3 読んだ本の中で、電子書籍の割合はどのくらいですか？
(Q2:「1冊以上」回答者)

	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
ない	94	48%	27	12%	91	45%	85	75%	297	40%
少し(～3割)	63	32%	91	40%	83	41%	3	3%	240	32%
半分(4～6割)	18	9%	74	32%	14	7%	9	8%	115	16%
ほとんど(7～9割)	21	11%	32	14%	14	7%	11	10%	78	11%
全部	0	0%	5	2%	1	0%	5	4%	11	1%
合計	196	100%	229	100%	203	100%	113	100%	741	100%



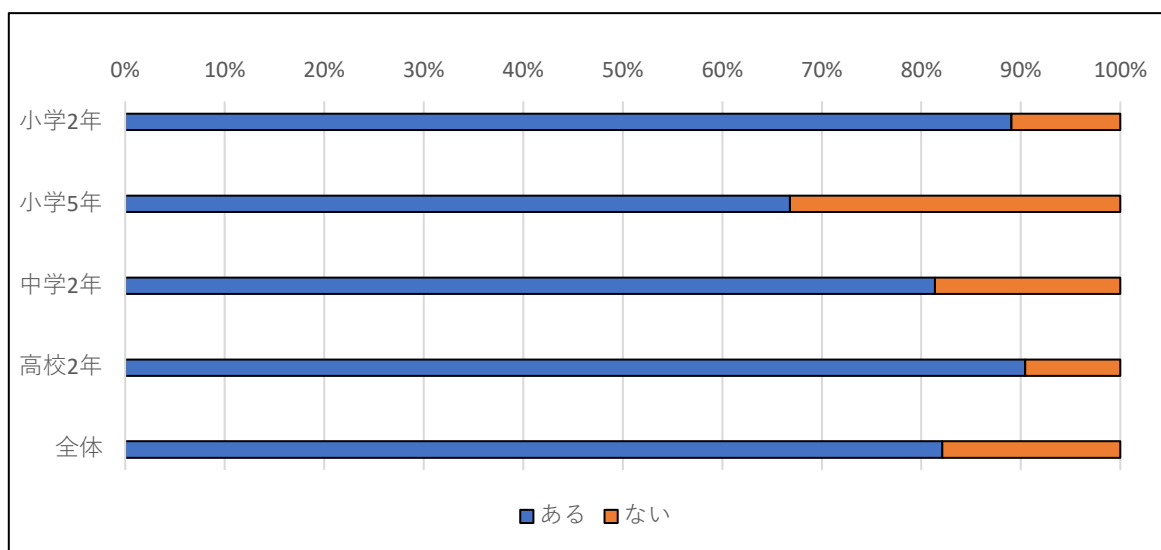
Q. 4 家で本を読んでいる家族の姿を見かけますか？

	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
ほぼ毎日	78	39%	38	17%	18	8%	10	4%	144	16%
週に 1～2 回くらい	31	15%	43	19%	22	10%	35	13%	131	14%
月に 1～3 回くらい	31	15%	52	23%	47	21%	39	14%	169	18%
見ない	61	30%	96	42%	133	60%	188	69%	478	52%
合計	201	100%	229	100%	220	100%	272	100%	922	100%



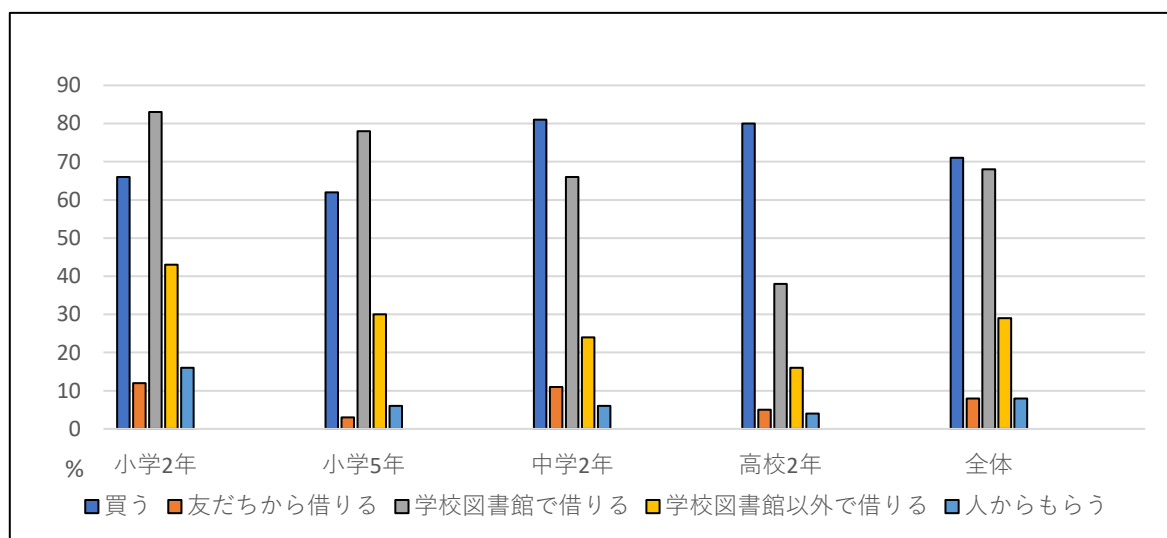
Q. 5 幼い頃に家族に本を読んでもらった経験がありますか？

	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
ある	179	89%	153	67%	179	81%	246	90%	757	82%
ない	22	11%	76	33%	41	19%	26	10%	165	18%
合計	201	100%	229	100%	220	100%	272	100%	922	100%



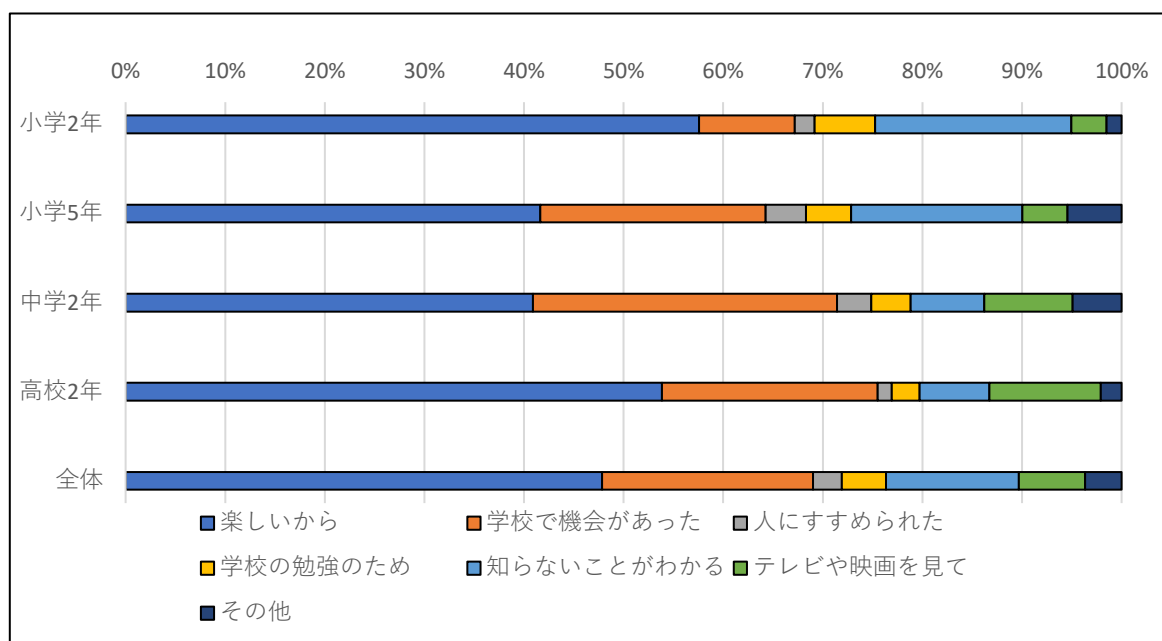
Q. 6 普段どのようにして本を手に入れることが多いですか？【複数選択】
 (Q2:「1冊以上」回答者)

	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
買う(買ってもらう)	131	66%	137	62%	164	81%	114	80%	546	71%
友だちから借りる	24	12%	6	3%	22	11%	7	5%	59	8%
学校図書館で借りる	164	83%	172	78%	133	66%	55	38%	524	68%
学校図書館以外 (市立図書館など) で借りる	85	43%	67	30%	49	24%	23	16%	224	29%
人からもらう	31	16%	14	6%	13	6%	6	4%	64	8%
【Q2:「1冊以上」 回答者数】	198	220 %	221	179 %	203	188 %	143	143 %	765	185 %



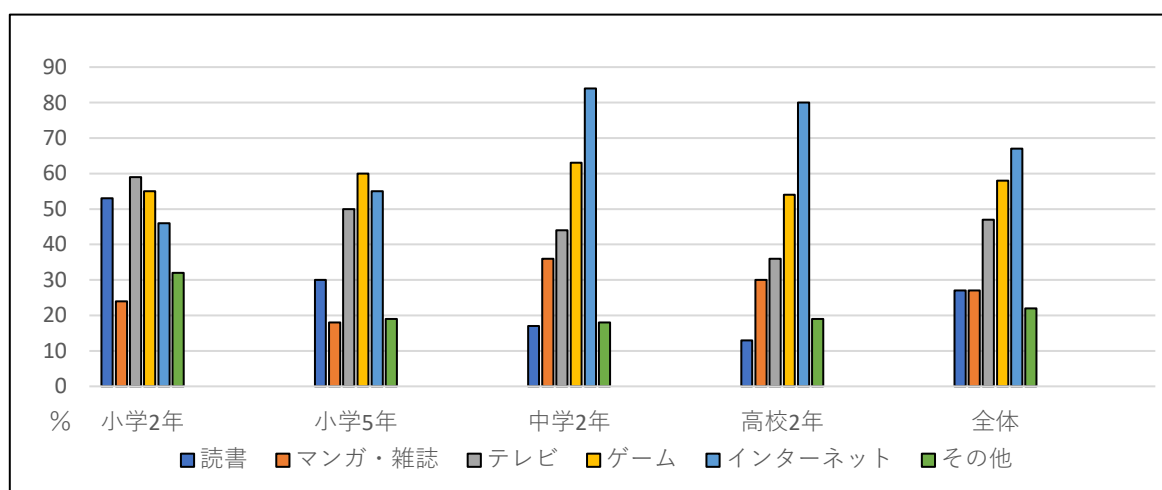
Q. 7 あなたが本を読む理由はなんですか？
(Q2:「1冊以上」回答者)

	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
楽しいから	114	58%	92	42%	83	41%	77	54%	366	48%
学校で本を読む 機会や時間があつた	19	10%	50	23%	62	31%	31	22%	162	21%
友だち、家族、先生 にすすめられた	4	2%	9	4%	7	3%	2	1%	22	3%
学校の勉強のため	12	6%	10	5%	8	4%	4	3%	34	4%
知らないことが わかる	39	20%	38	17%	15	7%	10	7%	102	13%
テレビや映画を見 て、読みたくなった	7	4%	10	5%	18	9%	16	11%	51	7%
その他	3	2%	12	5%	10	5%	3	2%	28	4%
合計	198	100%	221	100%	203	100%	143	100%	765	100%



Q. 8 自分の好きに過ごせるひとりに時間に、何をして過ごすことが多いですか？【上位 3 つ選択】

	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
読書	106	53%	69	30%	37	17%	36	13%	248	27%
マンガ・雑誌を読む	48	24%	41	18%	79	36%	81	30%	249	27%
テレビを見る	119	59%	115	50%	97	44%	99	36%	430	47%
ゲーム	110	55%	137	60%	139	63%	148	54%	534	58%
インターネット (SNSや動画視聴を含む)	92	46%	125	55%	185	84%	218	80%	620	67%
その他	65	32%	43	19%	39	18%	53	19%	200	22%
合計	201	269%	229	231%	220	262%	272	233%	922	247%

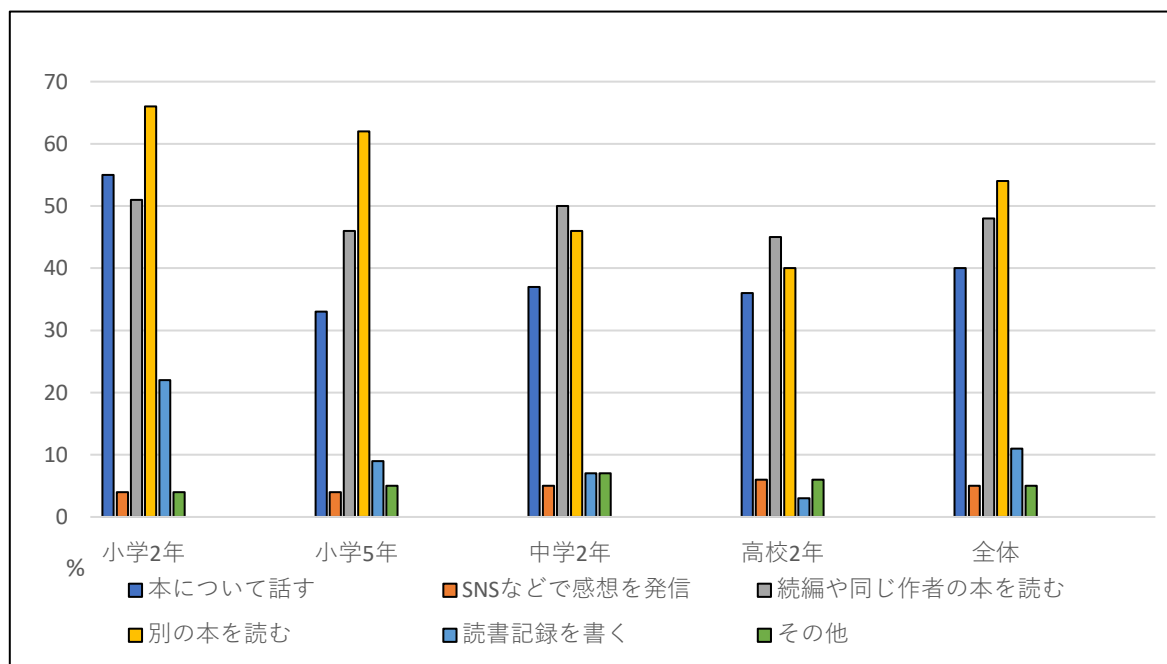


余暇時間の過ごし方についての設問では、「ゲーム」と回答した割合はどの学年においても大幅な変動なく5～6割台の一定数を占めています。

「読書」の回答割合は小学2年生で 53%となるものの、以降は下降となり、中学2年生と高校2年生では「インターネット」が8割を超え多く占める結果となりました。

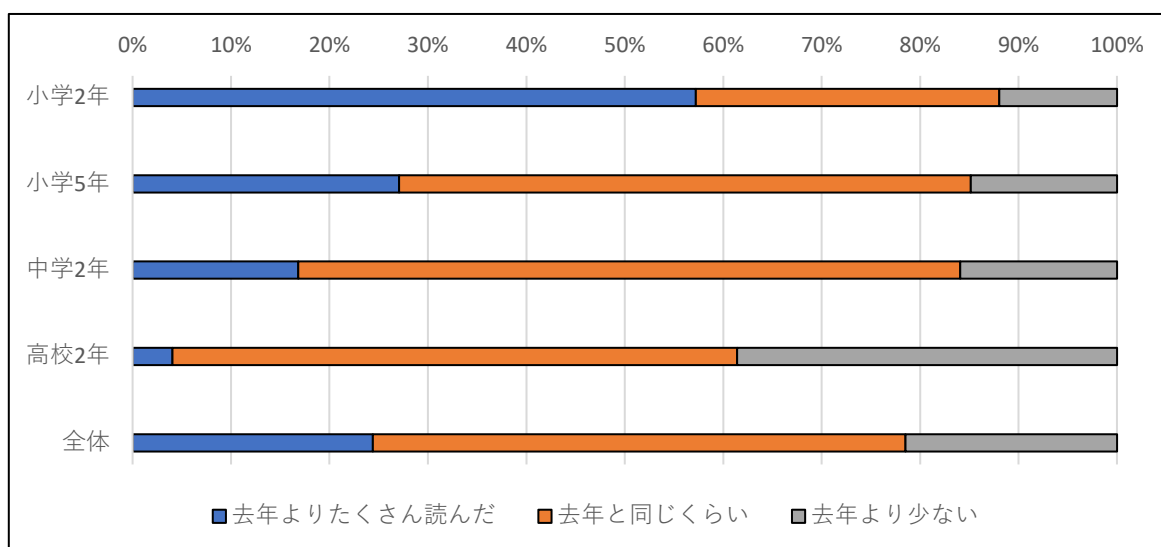
Q. 9 この１年間で、本を読んだ後にとった行動がありますか？【複数選択】

	小学２年		小学５年		中学２年		高校２年		全体	
友だちや家族と本について話した	108	55%	73	33%	75	37%	52	36%	308	40%
SNS や感想投稿アプリなどで感や紹介内容を発信・共有した	7	4%	9	4%	11	5%	9	6%	36	5%
その本の続編や同じ作者の本を読んだ	100	51%	101	46%	102	50%	64	45%	367	48%
別の本も読みたくなって読んだ	130	66%	136	62%	93	46%	57	40%	416	54%
その本の書名や感想など記録を書いた	44	22%	19	9%	15	7%	5	3%	83	11%
その他	7	4%	11	5%	14	7%	8	6%	40	5%
※Q2:「1冊以上」回答者	198	200%	221	158%	203	153%	143	136%	765	163%

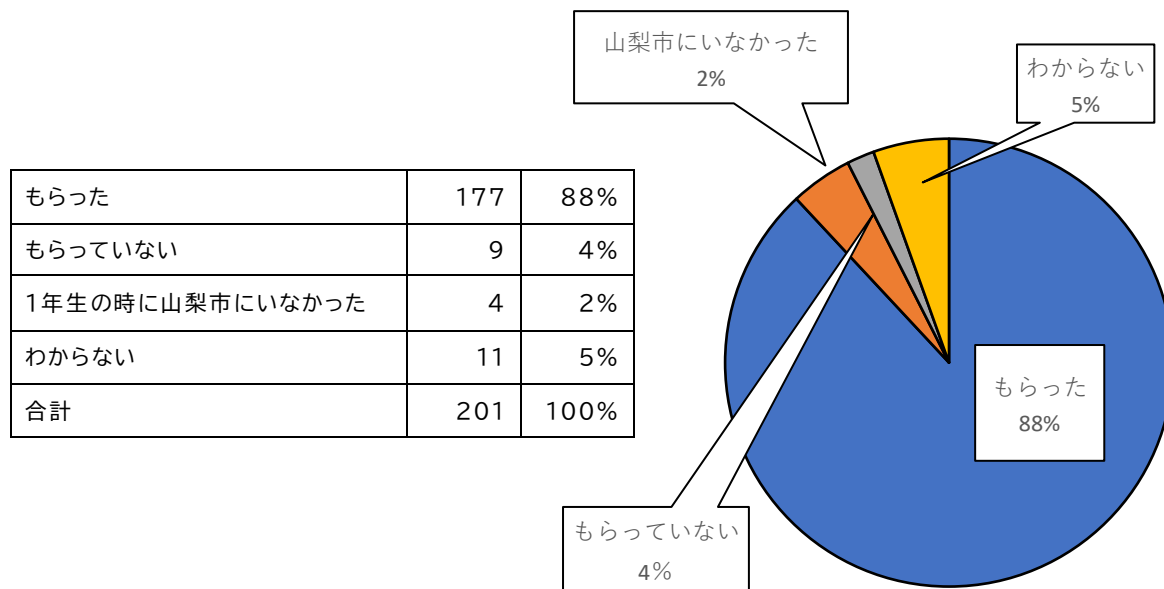


Q.10 あなたは、去年と比べて今年の方がたくさん本を読みましたか？

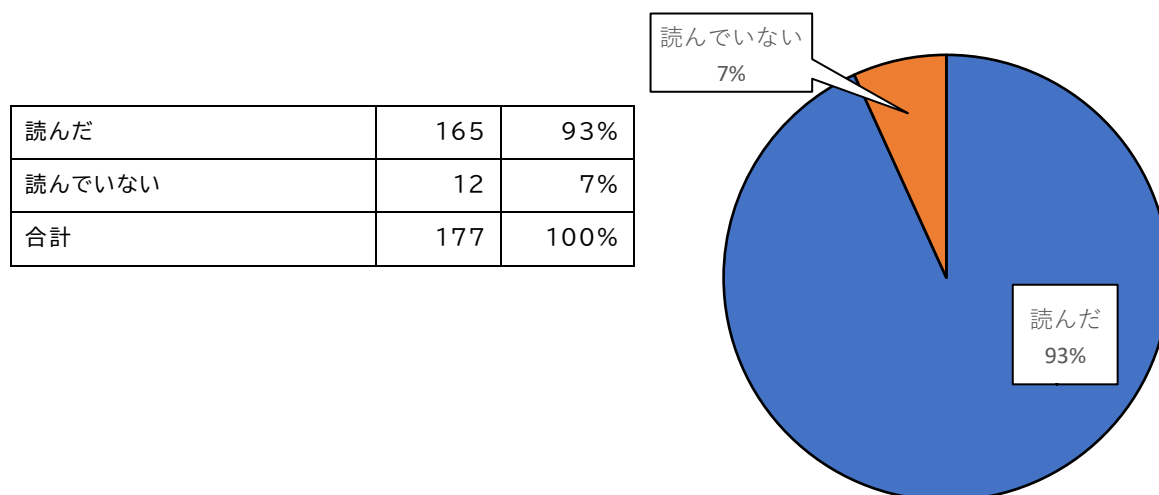
	小学 2 年		小学 5 年		中学 2 年		高校 2 年		全体	
去年よりたくさん 読んだ	115	57%	62	27%	37	17%	11	4%	225	24%
去年と同じくらい	62	31%	133	58%	148	67%	156	57%	499	54%
去年より少ない	24	12%	34	15%	35	16%	105	39%	198	21%
合計	201	100%	229	100%	220	100%	272	100%	922	100%



Q. 11 山梨市では、「サードブック」として、小学1年生に本をプレゼントしています。1年生の時に、本をもらいましたか？（小学2年生のみ回答）

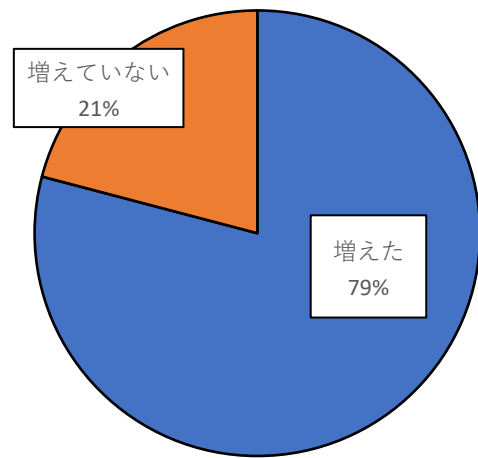


Q. 12 サードブックでプレゼントされた本を読みましたか？
（Q11:「もらった」回答者）



Q. 12 サードブックをもらったことで、本を読むことが増えましたか？
 (Q11:「もらった」回答者)

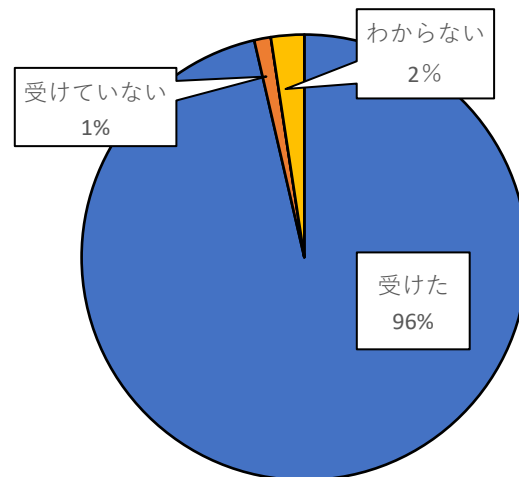
増えた	140	79%
増えていない	37	21%
合計	177	100%



小学2年生の保護者 回答

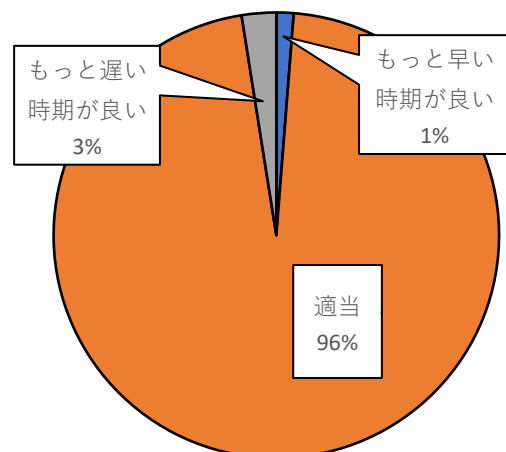
Q. 1 山梨市では読書環境の整備を目的に、小学1年生に本を贈るサードブック事業を行っています。お子さんは本を受け取りましたか？

受けた	80	96%
受けていない	1	1%
該当者ではなかった	0	0%
わからない	2	2%



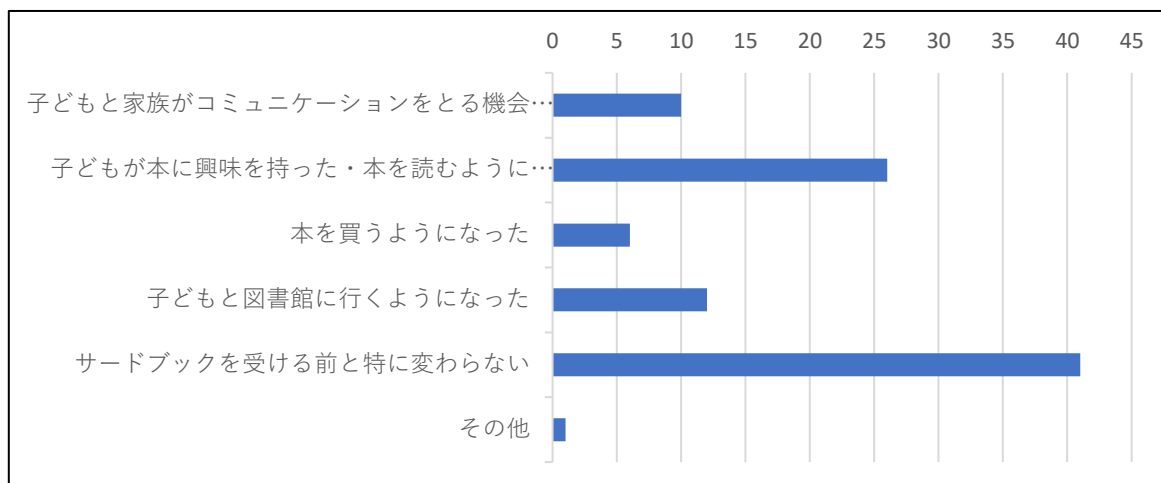
Q. 2 小学1年生へのサードブックは、時期として適当と思われますか？
 （ブック事業として、3ヶ月児、3歳児、小学1年生の時期に本を贈っています）
 （Q1:「受けた」回答者）

もっと早い時期が良い	1	1%
適当	77	96%
もっと遅い時期が良い	2	3%
合計	80	100%



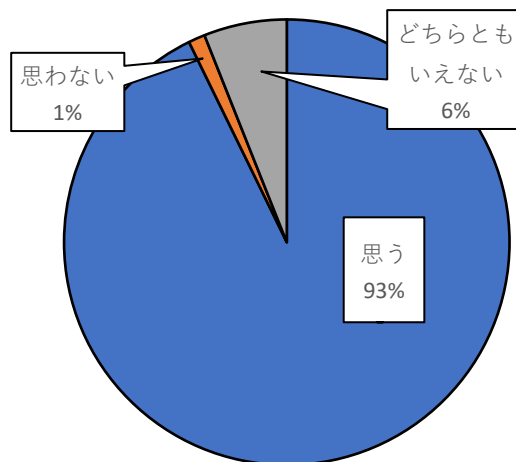
Q.3 サードブックの後、家庭で変わったことはありますか？【複数選択】
 (Q1:「受けた」回答者)

子どもと家族がコミュニケーションをとる機会が増えた	10	13%
子どもが本に興味を持った・本を読むようになった	26	33%
本を買うようになった	6	8%
子どもと図書館に行くようになった	12	15%
サードブックを受ける前と特に変わらない	41	51%
その他	1	1%
(Q1:「受けた」回答者数)	80	120%



Q. 4 サードブックは、今後も続けると良いと思いますか？

思う	77	93%
思わない	1	1%
どちらともいえない	5	6%
合計	83	100%



Q. 5 子どもが読書を好きになるために、保護者として何が必要だと考えますか？【自由記述】

- 家族が本を読む姿を見せる。家族の読書習慣。(13)
- 保護者も一緒に読書を楽しむ。(9)
- 小さい時から読み聞かせをする。(17)
- 保護者が読書の楽しさを伝える。本について語らう。(4)
- 一緒に図書館に行って本に触れる。(6)
- 本人が自由に本を手にする環境づくり。身近に本があること。(6)
- 本に触れる機会をつくる。(1)
- 読書でさまざまなことを学ぶことができると伝える。(1)
- 子どもの個性を尊重し、合った本を選ぶ。(3)
- 子どもの意欲を尊重する。無理強いをしない。(1)
- メディアに費やしている時間を読書に向くよう声かけ。読書の時間をつくる。(2)
- 子どもとの時間をつくる。(2)
- その時の流行りを取り入れる。
- 本に興味を持ってもらい、読む時間を与えること。
- 読書の習慣づくり。
- 早い時期から読書活動が身近にある環境を作り出すこと。
- 毎日読書をして、読んだという達成感を感じてもらう。

Q. 6 大人も子どもも含めた読書活動全般について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。(自由記述)

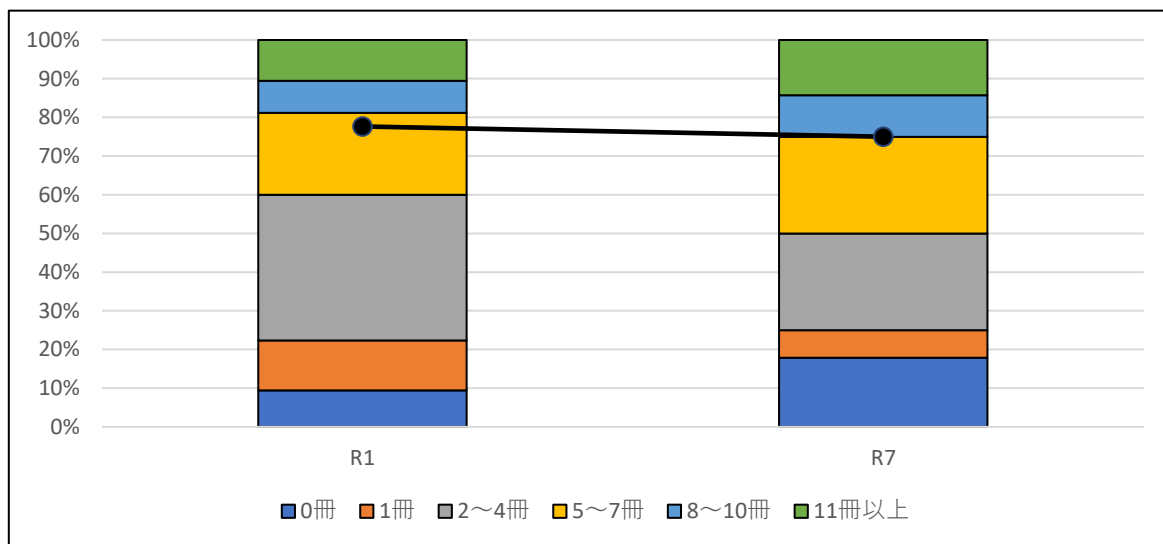
- テレビはながらで見る事が出来るが、読書は意識的に時間を作らないと難しい。近しい大人や兄弟が本を読んでいると、小さな子供も自然と本をとるようになると思う。
- 昔に比べて、テレビやメディアに触れる機会が多いので、意識して読書をしないとならないと思う。
- 大人が本のデジタル化が進むと、子どもが本に接する機会が減るように思う。子どもの本のデジタル化をどのように考えたら良いか、何か案内などがあると嬉しい。
- 小さな頃からの読み聞かせは本の世界への扉を開く大きな役割をしている。
- 小さい時から読み聞かせをしてあげると自然と絵本への興味が向かう気がする。個人差はあるが、親が本を読んでいるとそれ何？と聞いてきて夜寝る前に好きな本を持ってきて読んで！と本に触れようとする。親の行動次第だと感じる。
- 小学校低学年頃までは、子どもが一人で本を読むよりも、大人と一緒に読んだり、読んでもらったりすることを喜ぶのでできるだけ時間を作ってあげたいと思うが、日常の忙しさで難しい状況がある。
- 絵本は配本で毎月とっていて、子ども達の読書は定着した。ただ、定着させるには、YouTube やゲーム、テレビなど、刺激が強いものはなるべく避け、毎晩読み聞かせしたりと、努力したからだと思う。忙しい子育ての日々の中で、読書というものに価値を見いだすエビデンスがあれば、継続する助けになると思う。
- 小さい時から読み聞かせをしたが、うちの子はジッと聴ける方では無かった。読み聞かせは本を身近に感じるかもしれないが、子どもが読書をするようになるかは、その子の興味や特性次第だと実感している。図書館にも度々連れて行って、一緒にゆっくり読書をしたいが、子どもはすぐに飽きてしまい、満足に読めたことがない。だが、いつでも気軽に行ける図書館が身近にあるのはありがたい。あと、自分が子どもの時の読書感想文の課題は本当に辛く、読書嫌いを加速しただけ。子どもが読みたいと思うまでは読書を無理強いしないようにしている。
- 児童書も、もう少し小さければ良いと思う。かさばるし、形もバラバラで子供も片付けにくい。読み終わったらどうしても邪魔になってしまい、読みきった物を捨てるのももったいないし、市役所とかで要らなくなった本を誰かがそのまま貰えるように、本置き場とかあれば良い。
- とても良い取り組みだと思う。今後もぜひ継続していただきたい。
- サードブック事業も良いが、もう少し間隔を空けるか、フォースブックとして9歳時に贈る事業も行って欲しい。自分で本を選ぶということになると、どんな本が良いか、自ら能動的に本の内容を吟味する。本に対して意識が向くと思うので。

- サードブックは子どもが絵本選びの段階からとても嬉しそうにしていた。
- 必要になった時に読む努力をする。いつからでも始められる。
- 親子で本や物語に触れる機会が増えると良い。大きく映し出して野外でおはなし会があると行きやすく、イベントのようで親子で楽しく参加できると思う。
- 個人的に絵本が大好きなので、学校での読み聞かせのボランティアなどがあれば参加したい。
- 図書館以外にも、本を自由に読める場所がたくさんあったら良い。
- 大人も読書する姿を見せることが重要と思う。
- 本が高額で何冊も買えないので、図書館はとても助かる。これからも図書館が充実してくれると嬉しい。
- ジャンル問わず魅力的な本を紹介してほしい。
- 最近行っていないが、また定期的に市立図書館に本を借りに行きたい。
- 大人にもテーマ、年代別にオススメの本を教えて欲しい。
- 市立図書館にある本の数などのさらなる充実を希望する。
- 市立図書館の本が全体的に古い。新刊を入れてほしい。
- 山梨市に図書館が少なすぎる。1箇所って…。家から遠い人や車がない子どもや学生は非常に使いづらい。使われていない建物や、公民館の一室一角を借りて、小規模でもいいので図書館を増やしてほしい。また読書とは別になりますが、市立図書館で VHS が借りられるが、図書館内でも観られるようにデッキを置いてほしい。
- 市立図書館は充実していて、親子ともに楽しく利用している。
- 図書館の本を増やしてほしい。
- 子どもが読みたいと思う本を図書館に入れてほしい。
- 山梨市には大きな図書館があり大変お世話になっている。子ども達も毎日読書が続けている。私が「子どもが好きかな？適齢かな」と思うような本を2人分2週間毎に借りているが、いつも楽しく読んでくれて嬉しい。
- 学校で借りてから返すまでの期間をしっかりともらってほしい。今は返すまでの期間が短すぎて本を楽しむ前に時間に終わられて読んでいる感じがある。
- 区民会館や公民館(子どもの徒歩圏内)で出張図書館や出張映画上映をしてほしい。特に夏休み。
- 図書館に行く機会を増やしたりイベント参加などの情報も得られるよう今後もマチコミなどで発信していただけるとありがたい。
- ゆっくり読める環境、時間をもうけてほしい。

園児(年長)保護者 回答

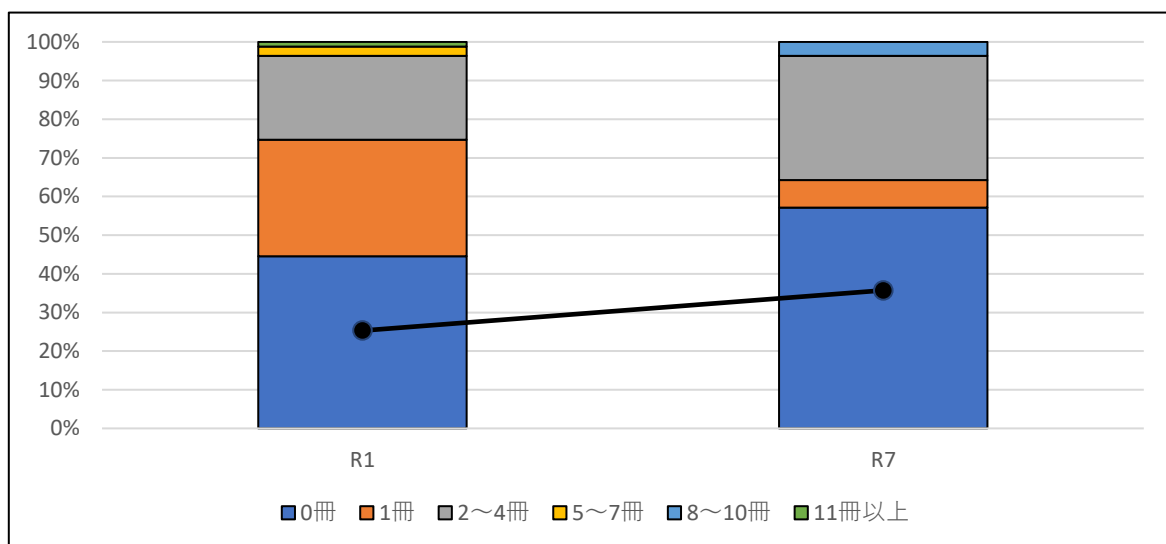
Q. 1 お子さんは、1ヶ月の間に、どのくらい本を読みますか？
(マンガは含めない)

	R1		R7	
0 冊	8	9%	5	18%
1 冊	11	13%	2	7%
2～4 冊	32	38%	7	25%
5～7 冊	18	21%	7	25%
8～10 冊	7	8%	3	11%
11 冊以上	9	11%	4	14%
合計	85	100%	28	100%



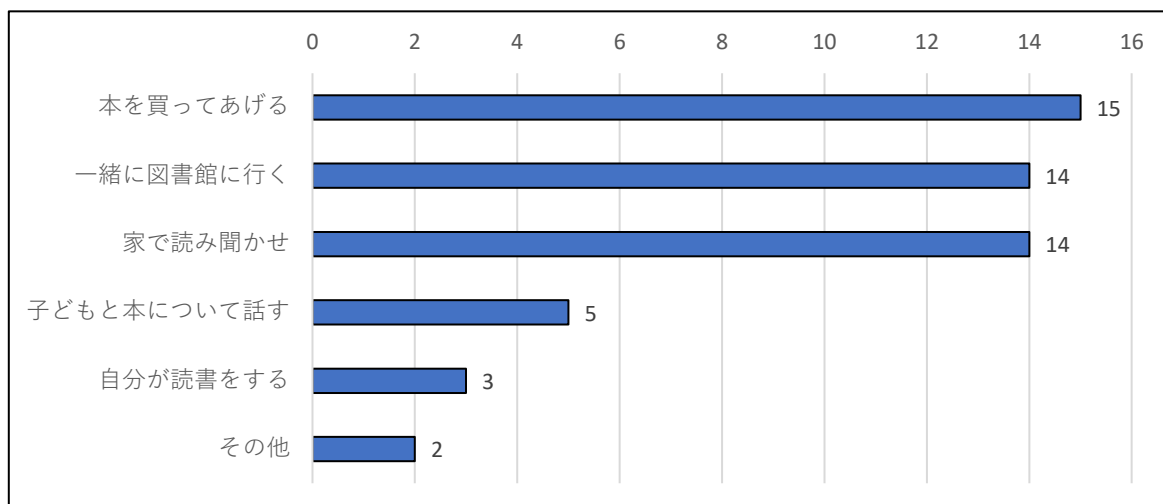
Q. 2 あなたは、1ヶ月の間に、どのくらい本を読みますか？
(マンガは含めない)

	R1		R7	
0 冊	37	45%	16	57%
1 冊	25	30%	2	7%
2～4 冊	18	22%	9	32%
5～7 冊	2	2%	0	0%
8～10 冊	0	0%	1	4%
11 冊以上	1	1%	0	0%
合計	83	100%	28	100%



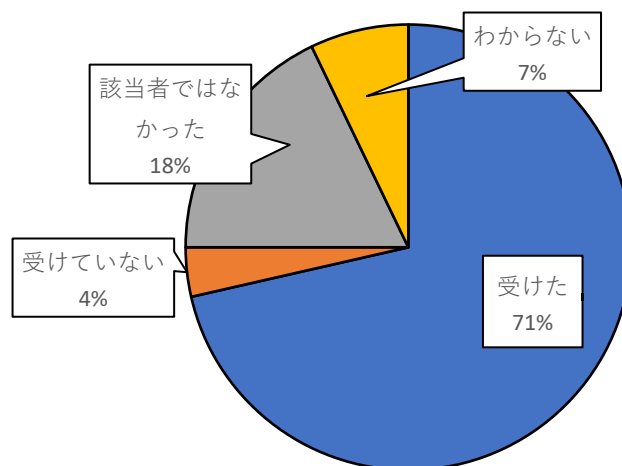
Q.3 子どもが読書するきっかけ(または環境)づくりとして、していることはありますか？(複数選択)

本を買ってあげる	15	28%
一緒に図書館に行く	14	26%
家で読み聞かせ	14	26%
子どもと本について話す	5	9%
自分が読書をする	3	6%
その他	2	4%
合計	53	100%



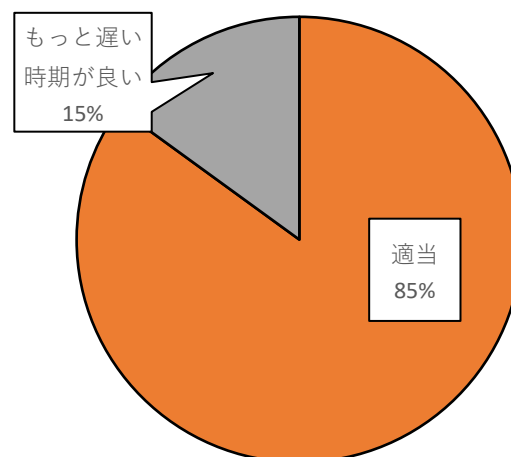
Q. 4 山梨市では読書環境の整備を目的に、赤ちゃんに絵本を贈るブック事業を行っています。(健診時に実施)
 ブックスタート(3ヶ月児対象)を受けましたか？

受けた	20	71%
受けていない	1	4%
該当者ではなかった	5	18%
わからない	2	7%
合計	28	100%



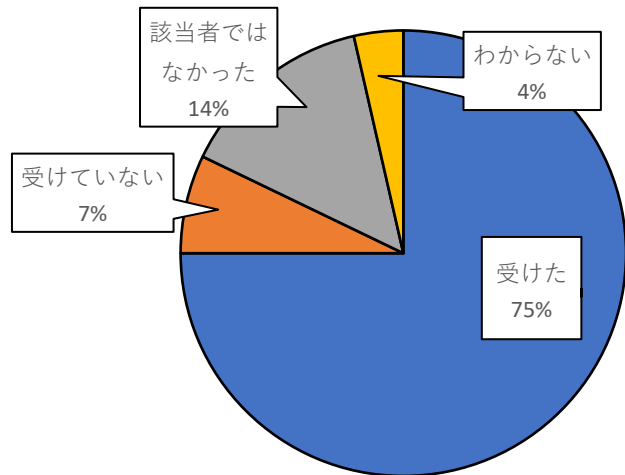
Q. 5 3ヶ月児へのブックスタートは、時期として適当と思われますか？
 (Q4:「受けた」回答者)

もっと早い時期が良い	0	0%
適当	17	85%
もっと遅い時期が良い	3	15%
合計	20	100%



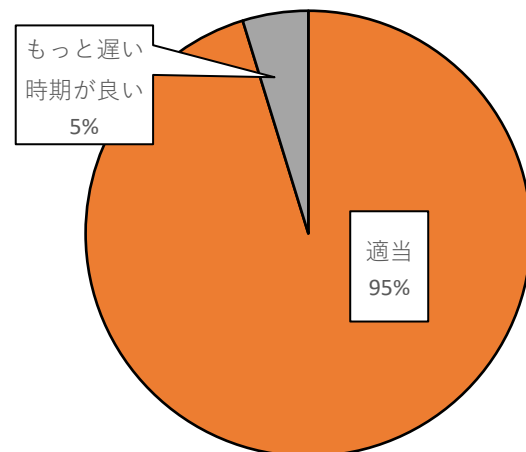
Q. 6 セカンドブック(3歳児対象)を受けましたか？

受けた	21	75%
受けていない	2	7%
該当者ではなかった	4	14%
わからない	1	4%
合計	28	100%



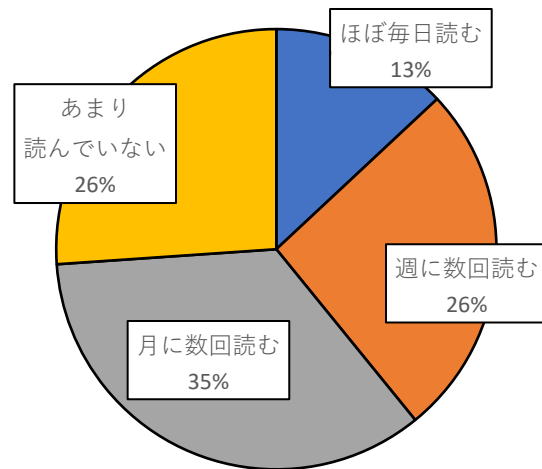
Q. 7 3歳児へのセカンドブックは、時期として適当と思われますか？
(Q6:「受けた」回答者)

もっと早い時期が良い	0	0%
適当	20	95%
もっと遅い時期が良い	1	5%
合計	21	100%



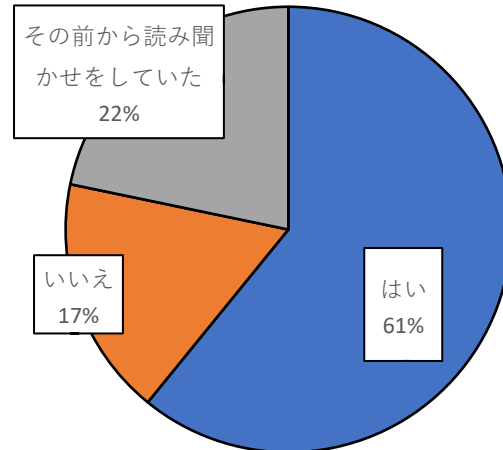
Q. 8 ブック事業の本で読み聞かせを行いましたか？(当時)
(Q4 または Q6:「受けた」回答者)

ほぼ毎日読む	3	13%
週に数回読む	6	26%
月に数回読む	8	35%
あまり読んでいない	6	26%
(Q4 または Q6: 「受けた」回答者)	23	100%



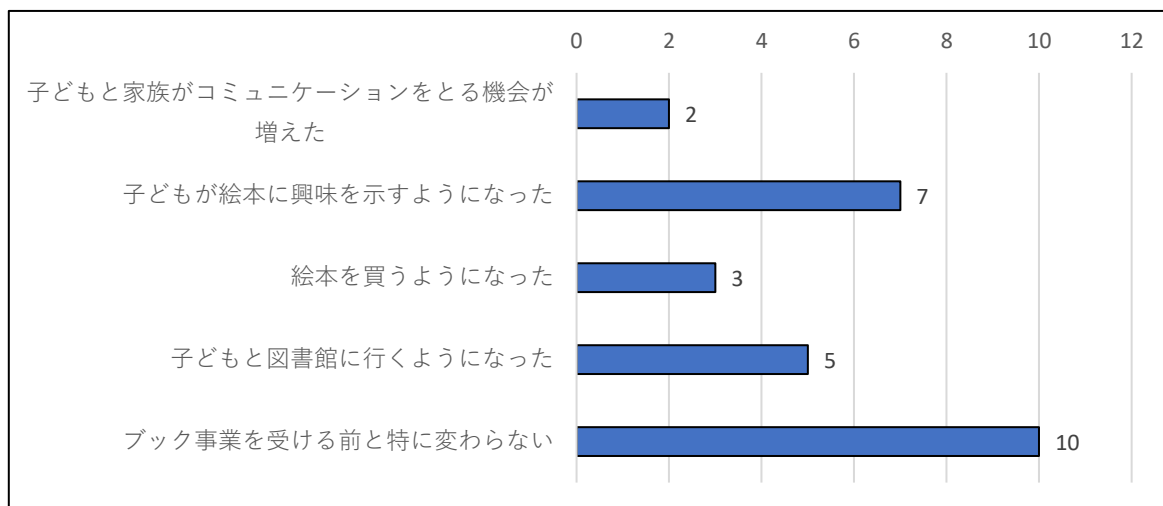
Q. 9 ブック事業が絵本を読んであげるきっかけになったと思いますか？
(Q4 または Q6:「受けた」回答者)

はい	14	61%
いいえ	4	17%
その前から読み聞かせをしていた	5	22%
(Q4 または Q6: 「受けた」回答者)	23	100%



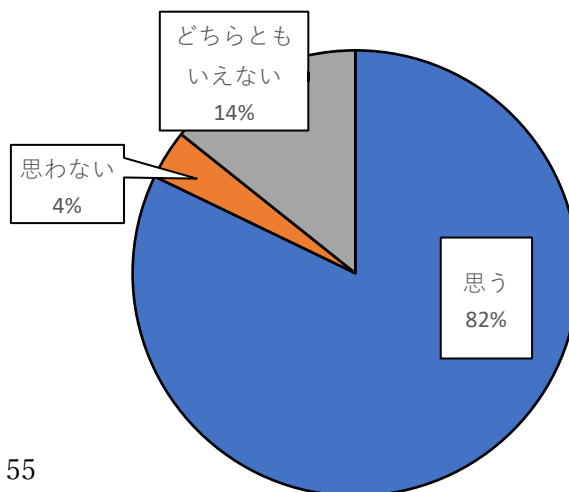
Q. 10 ブック事業の後、ご家庭で変わったことはありますか？（複数選択）

子どもと家族がコミュニケーションをとる機会が増えた	2	9%
子どもが絵本に興味を示すようになった	7	30%
絵本を買うようになった	3	13%
子どもと図書館に行くようになった	5	22%
ブック事業を受ける前と特に変わらない	10	43%
（Q4 または Q6：「受けた」回答者）	23	117%



Q. 11 ブック事業は、今後も続けると良いと思いますか？

思う	23	82%
思わない	1	4%
どちらともいえない	4	14%
合計	28	100%



Q. 12 子どもが読書を好きになるために、保護者として何が必要だと考えますか。(自由記述)

- 読書を通じて字も読めていくんだよと伝える。
- 親がまず読書している姿を見せる。(3)
- 興味を持ってもらうように読み方を工夫する。(2)
- 安全を確保した上で、本人が自由に本を選び開ける環境。成長してきたら、本屋や図書館等、本が多くあり自分で選べる場所を教える事が良いと思う。
- 好きな本について子どもに語り聞かせること(ただし、押しつけがましくならないように)
- 読んだ本や読みたいについてたくさん話をする。
- 一緒に本を読む。
- 読み聞かせ。読み聞かせの時間の位置付け。(4)
- 一緒に図書館に通う。(2)
- 本に触れる機会をつくること。
- 本をまとまった時間読もうとするのは大人でも大変な事。隙間時間にできる事として定着させて行くのが素敵だと思う。
- 絵本を読む習慣をつけること

Q. 13 大人も子どもも含めた読書活動全般について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。(自由記述)

- スマホやゲームが身の回りに当たり前に存在している時代だからこそ、読書の重要性は高いと思う。読書の世界に没頭してハラハラドキドキしたり、涙を流したりする素晴らしい経験を多くの人に味わってもらいたい。そのためには本を手にする機会を増やしたい。最近は本屋さん自体が減っており、本を手にする機会がそもそも少ない。
- 読書活動とは別になってしまうかもしれませんが、公民館や区民会館を利用して、出張図書館や出張映画館を開催して欲しい。我が家は数年前に東京から引っ越してきたが、当地域はお祭りや行事が多く、その際に公民館・区民会館を利用することか身近であると感じた。特に子どもに関しては、徒歩圏内でも行ける場所なので、行事の時以外にも有効活用して頂きたいと常々思っている。夏休みの時期に子どもが安心して過ごせる場所を提供するという意味でも、出張図書館・映画館・おはなし会など有効ではないか。
- 劇やお遊戯とかごっこ遊びに本を読んでいきたい
- 本屋で本を買うが高くて躊躇するときもある。本を買うために割引券や図書券を市で配ってくれたら嬉しい。
- 紙芝居をしてほしい。
- 保育園でちょっとした空き・待ち時間に好きな本を読ませる、その習慣は文字が読めない年齢からやるのが良いと思う。
- 図書館がもっと魅力的な場になると良い。

子どもの読書活動に関するアンケート調査の結果
 ＜関連機関状況調査＞

山梨市 生涯学習課

【実施方法】 logo フォームによる回答

【調査期間】 令和7年8月5日(火)～令和7年9月4日(木)

【調査対象】

施設・団体数：51 回答数：42 回答率：82%

保育園・幼稚園 認定こども園	後屋敷保育園	学校	加納岩小学校	学童クラブ・児童センター等	加納岩学童クラブ
	岩手保育園(休園)		日下部小学校		おおとり学童クラブ
	山梨保育園		後屋敷小学校		日下部学童クラブ
	八日市場保育園		日川小学校		山梨学童クラブ
	八幡保育園		山梨小学校		八幡学童クラブ
	窪平保育園		八幡小学校		日川学童クラブ
	つつじ幼稚園		岩手小学校		後屋敷学童クラブ
	日下部保育園		笛川小学校		岩手学童クラブ
	光明保育園		山梨南中学校		笛川学童クラブ
	加納岩保育園		山梨北中学校		加納岩児童センター
	風の子保育園		笛川中学校		日下部児童センター
	くさかべ幼稚園		山梨高等学校		山梨児童センター
	双葉幼稚園		日川高等学校		つどいの広場たち
公民館	後屋敷公民館	公民館	中牧公民館		つどいの広場たち牧丘
	日川公民館		西保公民館		
	岩手公民館		諏訪公民館		
	加納岩公民館		八幡公民館		
	日下部公民館		山梨公民館		
	三富公民館				

※自由記入欄の複数回答は回答内容ごとにまとめた

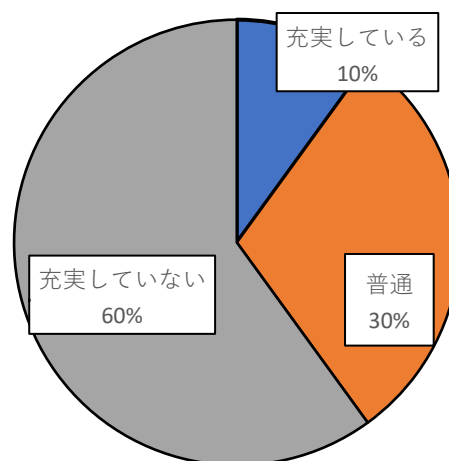
公民館 回答

Q. 1 子どもたちが読むことができる本が置いてある場所(コーナー)がありますか？

はい	10	100%
いいえ	0	0%
合計	10	100%

Q. 2 読書コーナーは年齢に応じた図書が充実していますか？
(Q1:「はい」回答者)

充実している	1	10%
普通	3	30%
充実していない	6	60%
合計	10	100%



Q. 3 おはなし会などの読書行事の実施(およその頻度)

0回	10	100%
1～3回／年	0	0%
4～6回／年	0	0%
7～9回／年	0	0%
10回以上／年	0	0%
合計	10	100%

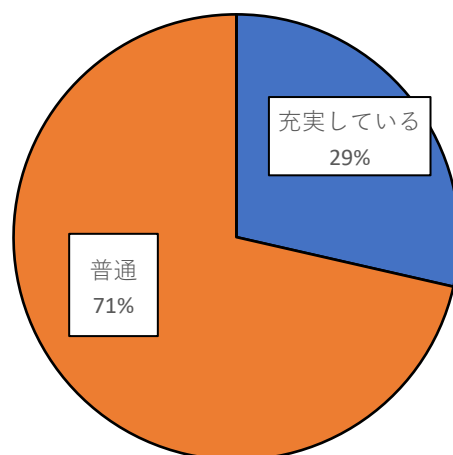
学童クラブ・児童センター・たち・たち牧丘 回答

Q. 1 子どもたちが読むことができる本が置いてある場所(コーナー)がありますか？

はい	7	100%
いいえ	0	0%
合計	7	100%

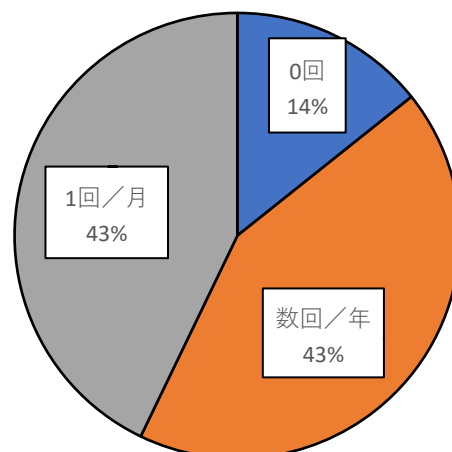
Q. 2 読書コーナーは年齢に応じた図書が充実していますか？

充実している	2	29%
普通	5	71%
充実していない	0	0%
合計	7	100%



Q. 3 市立図書館の団体サービスの活用(およその頻度)

0 回	1	14%
数回／年	3	43%
1 回／月	3	43%
2 回以上／月	0	0%
合計	7	100%



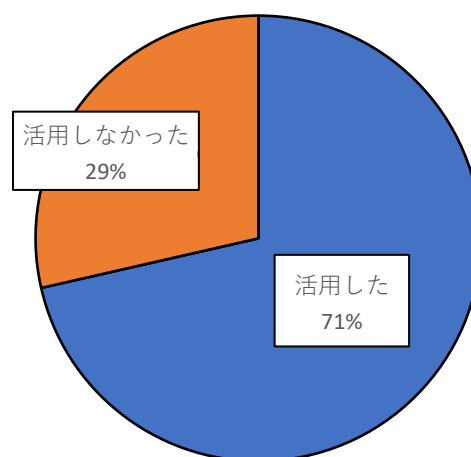
Q. 4 図書の運搬に係る人員及び手段の整備

(団体貸出を利用するにあたり、借り受けに行く人員及び手段)

十分	7	100%
不十分	0	0%
合計	7	100%

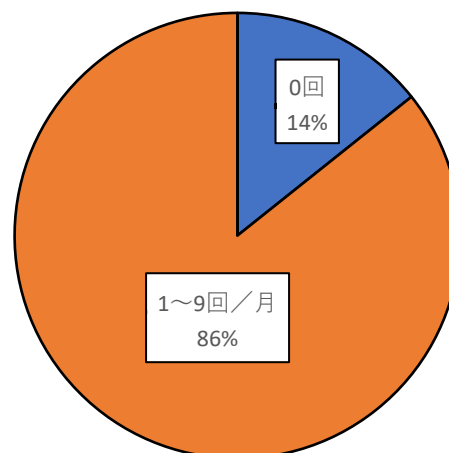
Q. 5 市立図書館の定期巡回団体貸出サービスの活用

活用した	5	71%
活用しなかった	2	29%
合計	7	100%



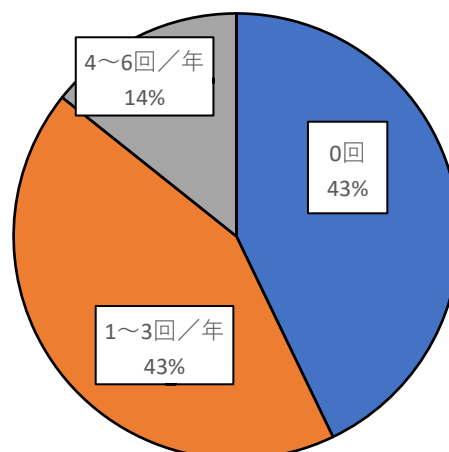
Q. 6 日常的な読み聞かせの実施(およその頻度)

0 回	1	14%
1～9 回／月	6	86%
10～14 回／月	0	0%
15～19 回／月	0	0%
20 回以上／月	0	0%
合計	7	100%



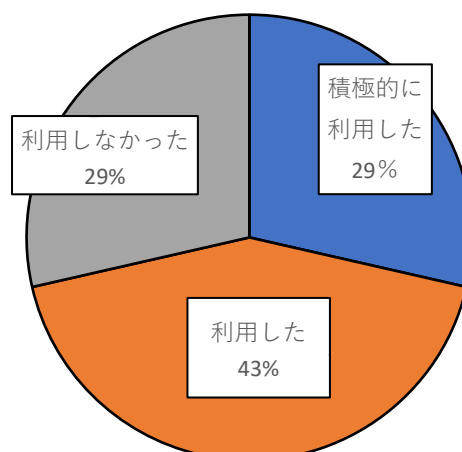
Q. 7 おはなし会などの読書行事の実施（およその頻度）

0 回	3	43%
1～3 回／年	3	43%
4～6 回／年	1	14%
7～9 回／年	0	0%
10 回以上／年	0	0%
合計	7	100%



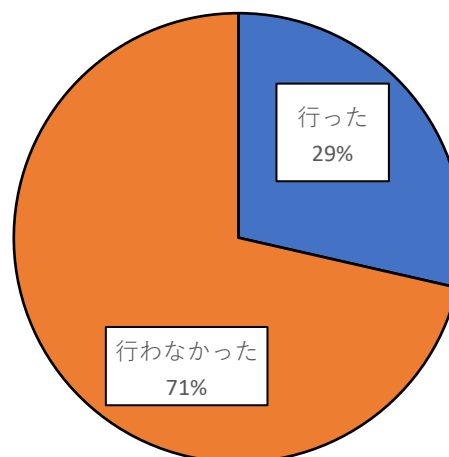
Q. 8 誕生会や季節の行事の中で、大型紙芝居やパネルシアターなどの積極的利用

積極的に利用した	2	29%
利用した	3	43%
利用しなかった	2	29%
合計	7	100%



Q. 9 保護者に対し家庭での読書の啓発
（例：施設での読書の様子を伝える、読書のおたより配布 など）

行った	2	29%
行わなかった	5	71%
合計	7	100%



<実施実績>

- ポスターの掲示(2)
- お便りの配布(2)

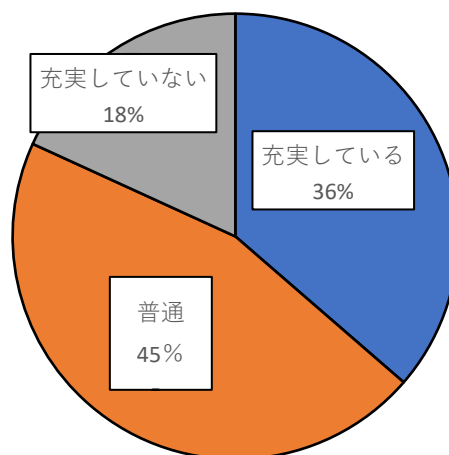
保育園・幼稚園・認定こども園 回答

Q. 1 子どもたちが読むことができる本が置いてある場所(コーナー)がありますか？

はい	11	100%
いいえ	0	0%
合計	11	100%

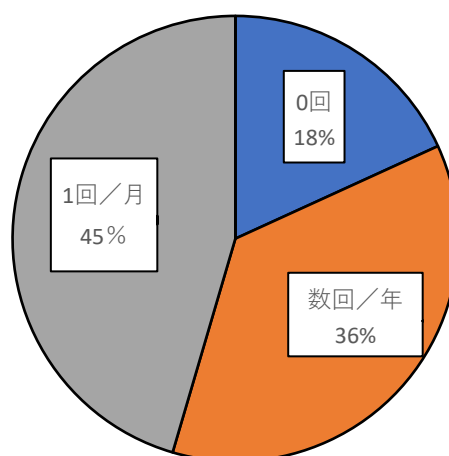
Q. 2 読書コーナーは年齢に応じた図書が充実していますか？

充実している	4	36%
普通	5	45%
充実していない	2	18%
合計	11	100%



Q. 3 市立図書館の団体サービスの活用(およその頻度)

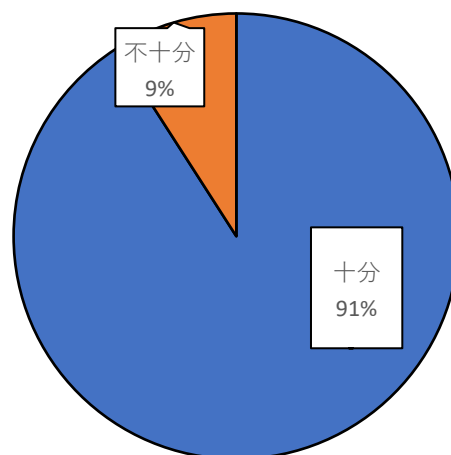
0回	2	18%
数回／年	4	36%
1回／月	5	45%
2回以上／月	0	0%
合計	11	100%



Q. 4 図書の運搬に係る人員及び手段の整備

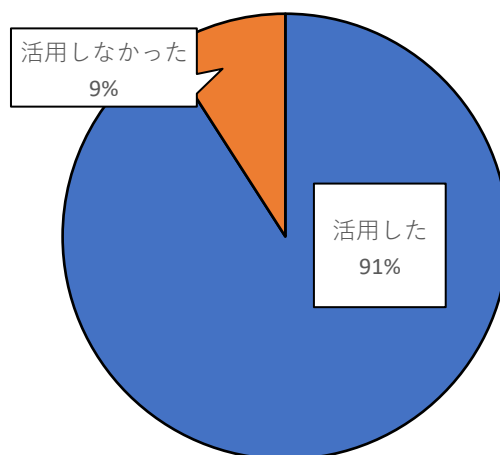
(団体貸出を利用するにあたり、借り受けに行く人員及び手段)

十分	10	91%
不十分	1	9%
合計	11	100%



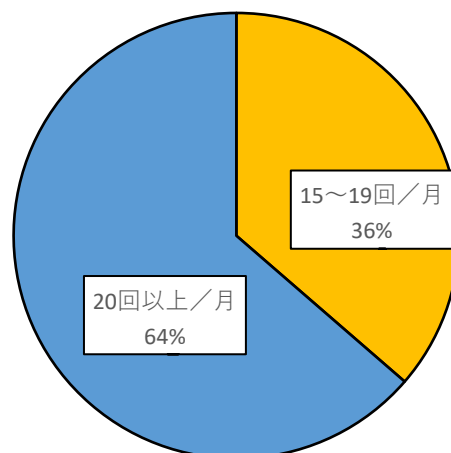
Q. 5 市立図書館の定期巡回団体貸出サービスの活用

活用した	10	91%
活用しなかった	1	9%
合計	11	100%



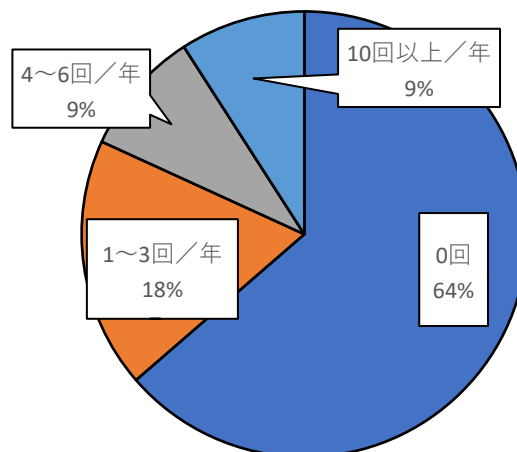
Q. 6 日常的な読み聞かせの実施(およその頻度)

0 回	0	0%
1～9 回／月	0	0%
10～14 回／月	0	0%
15～19 回／月	4	36%
20 回以上／月	7	64%
合計	11	100%



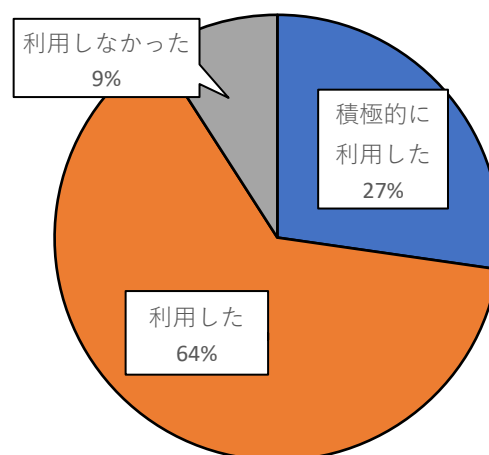
Q. 7 おはなし会などの読書行事の実施(およその頻度)

0 回	7	64%
1～3 回／年	2	18%
4～6 回／年	1	9%
7～9 回／年	0	0%
10 回以上／年	1	9%
合計	11	100%



Q. 8 誕生会や季節の行事の中で、大型紙芝居やパネルシアターなどの積極的利用

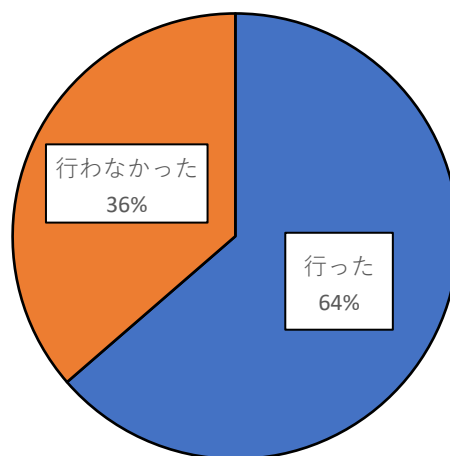
積極的に利用した	3	27%
利用した	7	64%
利用しなかった	1	9%
合計	11	100%



Q. 9 保護者に対し家庭での読書の啓発

(例：施設での読書の様子を伝える、読書のおたより配布 など)

行った	7	64%
行わなかった	4	36%
合計	11	100%

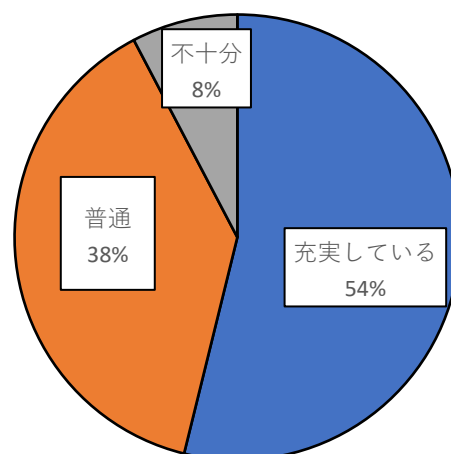


- 興味を持った内容や、ひらがなを読むことができるようになったことなどを保護者に伝えている。
- 疑問に思ったことを辞典で調べたり、日々絵本を見る時間を作っているので、読んで子どもが感じた内容などを保護者に伝える。
- おたよりの中で、お子様と一緒に本を見たり、読み聞かせをしてあげましょうという内容を記載。(2)
- 子どもたちに人気の本やこども新聞で興味をもった記事などの紹介。
- 園で月刊誌を購入し、月末には家に持って帰り、家庭でも読んでもらう。

学校 回答

Q. 1 児童生徒の学習や興味、関心に応えられるよう魅力的な蔵書の充実

充実している	7	54%
普通	5	38%
不十分	1	8%
合計	13	100%

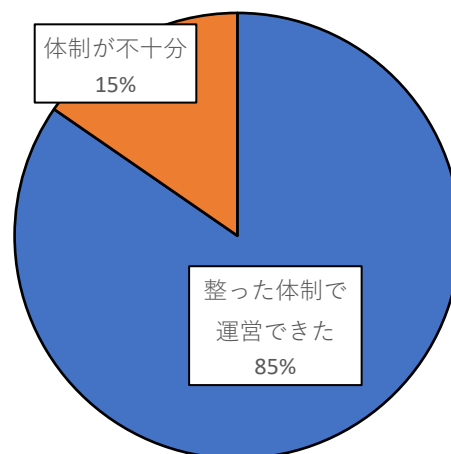


Q. 2 図書資料を有効利用するため、図書資料のデータベース化

している	13	100%
していない	0	0%
合計	13	100%

Q. 3 児童生徒の要求に応え、読書・教育活動を支援するため、学校司書の充実や司書教諭と協力して図書館運営が行える体制づくりの整備

整った体制で運営できた	11	85%
体制が不十分	2	15%
合計	13	100%



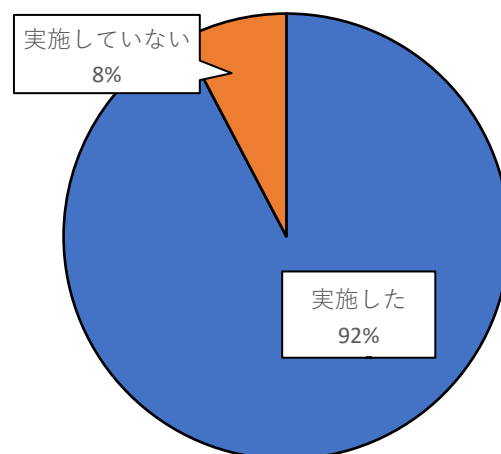
Q. 4 どのようなところが不十分だと思いますか？

(Q3:「体制が不十分」回答者)

- 時間がとれないため。
- 図書館司書の勤務状況(週3日)の為、活動が限られている。

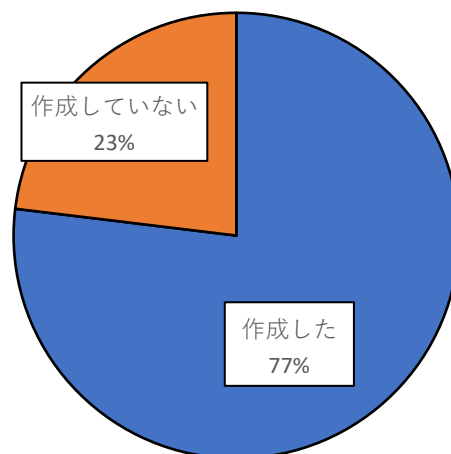
Q. 5 児童生徒へのレファレンスサービスの実施

実施した	12	92%
実施していない	1	8%
合計	13	100%



Q. 6 各種ブックリストの作成

作成した	10	77%
作成していない	3	23%
合計	13	100%

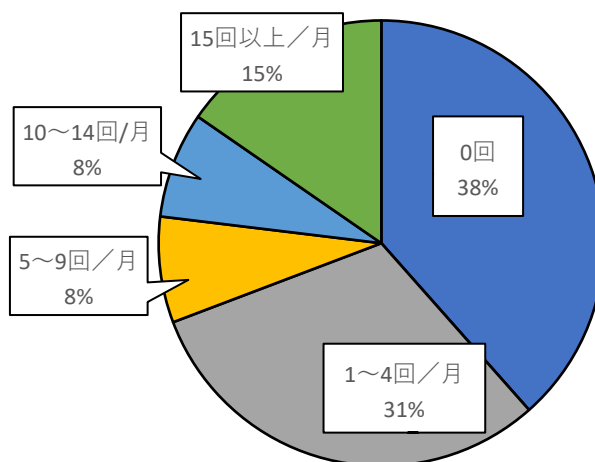


<リスト実績>

- 「おすすめの本」
- 「本の世界を広げよう」
- 「読み聞かせに使用した本」(2)
- 「家読」
- 「夏休み読書感想文課題図書」
- 「先生のおすすめ本」(2)
- 「森鷗外と近代日本」
- 分類記号やシリーズごとにリストを作成
- 「学校司書のすすめる本」(山梨市版・東山梨学校司書研究会版)(3)
- 「山南中の100冊」
- 職業調べや修学旅行関連本
- テーマ別(ミステリーなど)

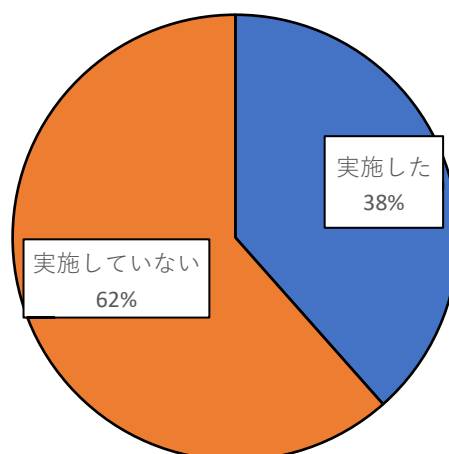
Q. 7 読み聞かせの実施(およその実施回数を教えてください)

0 回	5	38%
1～11 回／年	0	0%
1～4 回／月	4	31%
5～9 回／月	1	8%
10～14 回／月	1	8%
15 回以上／月	2	15%
合計	13	100%



Q. 8 図書集会(読書に関する行事)の実施

実施した	5	38%
実施していない	8	62%
合計	13	100%

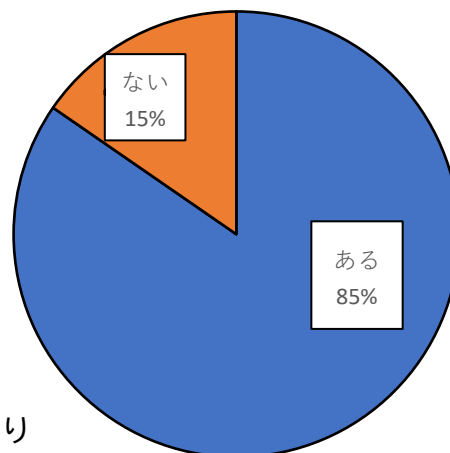


<実施実績>

- 読書集会 ▪ しおりコンテスト
- 読書ビンゴ(借りた本の分類でビンゴ)(2)
- 読書郵便(2)
- 課題図書の紹介 ▪ 先生のおすすめ本の掲示
- ラッピングブックの作成 ▪ 全校を対象にしたペア読書の実践
- 読書週間中に図書クイズ(ヒントをもとに本を探す)を実施

Q. 9 図書委員会活動の活性化を図るために、工夫して行った活動がありますか。

ある	11	85%
ない	2	15%
合計	13	100%

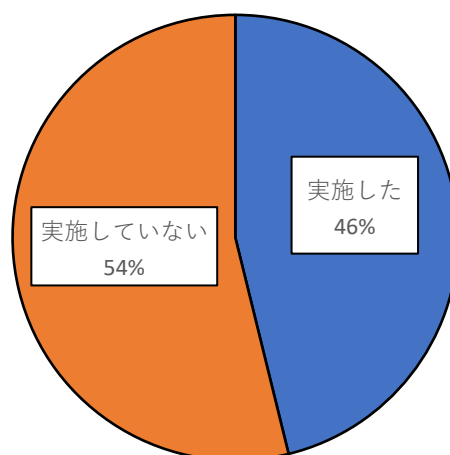


<活動実績>

- POP 作成(2) ▪ 季節に毎の展示
- スタンプラリー ▪ 読書ビンゴ(2)
- 夏休み読書感想文課題図書おすすめポスター作り
- くじの日、新しい本の紹介などお昼に放送する
- 読書週間中の活動 ▪ 図書委員のすすめる本 ▪ しおりプレゼント
- 100冊達成の児童にはプレミアムチケット(期間限定1冊多く借りられる)配布
- 本の CM カード ▪ おすすめの本の紹介(2) ▪ 図書委員会だより作成
- いざなう図書館(カウンター当番の週にクラスへの声かけ強化)
- 学級文庫本の選定 ▪ 図書館内にクイズを出題(2) ▪ 読み聞かせ
- クロームブックの活用(児童と教師の連携が図りやすいようにした)
- 「図書委員の本棚」と称して一区画に図書委員の勧める本を展示
- 休み時間におけるイベント的な活動の実践や掲示物の作成

Q. 10 朝読を通して読書や感想を語り合うことの楽しさを体感するしくみづくり(朝読本の紹介展示や読書リレー、読書マラソンなど、朝読+αを実施した)

実施した	6	46%
実施していない	7	54%
合計	13	100%

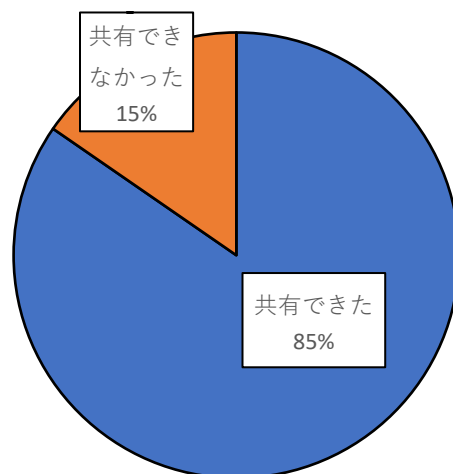


<実施実績>

- 本の読み聞かせ
- お勧めの本のコーナーを図書室内に設置した
- 朝読本の紹介展示、生徒おすすめ本の展示
- 朝読で読んだ本を、国語の授業でおすすめ本として紹介
- 朝読で読んだ本の紹介カードを作成し、学年ごと冊子化
- 上級生による読み聞かせの実践やペア読書の後に、感想を発表

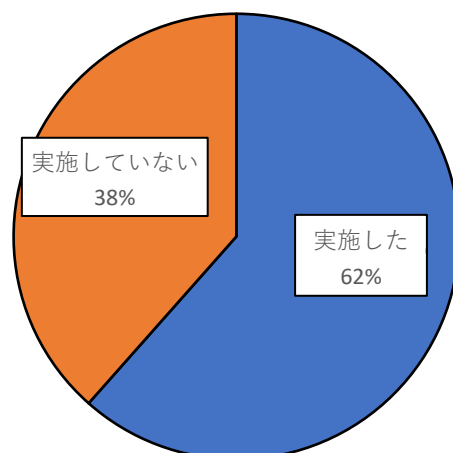
Q. 11 学校図書館が子どもの読書活動及び主体的・対話的で深い学びの視点による学習に寄与できるよう、学校司書と司書教諭、教員が情報の共有に努める。

共有できた	11	85%
十分に共有できなかった	2	15%
合計	13	100%



Q. 12 親子読書または家読の実施
(読書の楽しさを家庭で共有できるよう、家庭での読書に働きかけ)

実施した	8	62%
実施していない	5	38%
合計	13	100%

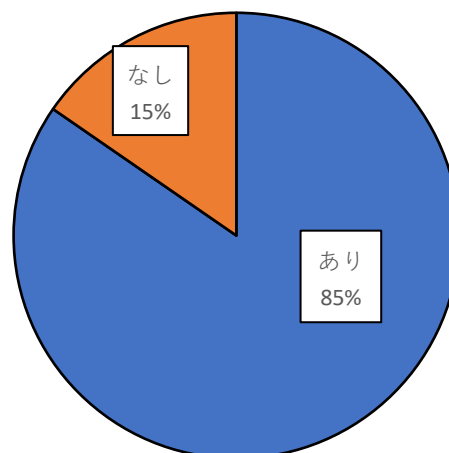


Q. 13 図書資料の蔵書数(紙芝居を含む)(令和 7 年 3 月末現在)

	平均蔵書数
小学校	9,227 冊
中学校	13,023 冊
高等学校	30,854 冊

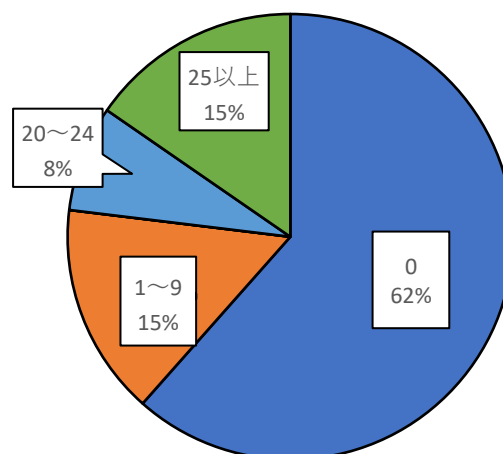
Q. 14 電子書籍導入の有無

あり	11	85%
なし	2	15%
合計	13	100%



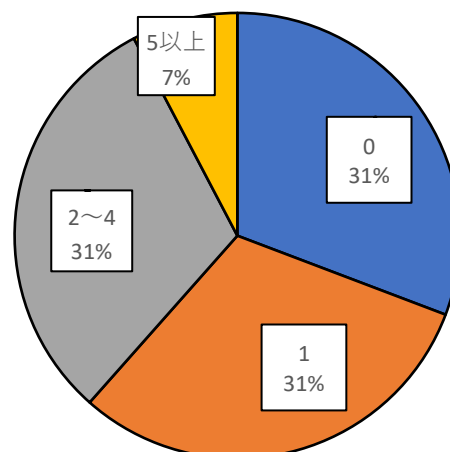
Q. 15 所蔵雑誌タイトル数

0	8	62%
1～9	2	15%
10～14	0	0%
15～19	0	0%
20～24	1	8%
25 以上	2	15%
合計	13	100%



Q. 16 配備している新聞のタイトル数

0	4	31%
1	4	31%
2～4	4	31%
5 以上	1	8%
合計	13	100%



第4次山梨市子ども読書活動推進計画

発 行 山梨市教育委員会
生涯学習課 市民会館・図書館担当
山梨市立図書館
〒405-0031
山梨県山梨市万力 1830

電 話 0553-22-9600 FAX 0553-23-3506

発 行 日 令和8年□月